

2022年度



アウトリーチプログラム 報告書



● ごあいさつ	1		
● ぶんかつアウトリーチプログラム概要	1		
● ぶんかつアウトリーチプログラムの申し込み方法・打ち合わせについて	2		
● プログラム構成			
プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう!	4		
プログラム② 見て、感じて、楽しむ松林図屏風	6		
プログラム③ 見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風	8		
プログラム④ 絵で読む平家物語	10		
● 実施報告			
品川区立大井第一小学校	12	世田谷区立砧中学校	19
三重県立四日市高等学校	13	京都府立福知山高等学校・附属中学校	20
江戸川区立東小岩小学校	14	東星学園中学校高等学校	21
足立区西保木間小学校	15	世田谷区玉川中学校	22
中野区立美鳩小学校	16	豊島岡女子学園中学校	23
舟形町中央公民館	17	葛飾区立川端小学校	24
米沢市上杉博物館	18	田園調布学園中等部	25
● 実施報告(改変対応機関)			
つばさ大森教室	26	つばさ池上教室	27
つばさ鎌田教室	26	つばさ羽田教室	27
● 実施報告(特別支援学級・特別支援学校)			
中野区立第二中学校	28	筑波大学附属大塚特別支援学校	30
世田谷区立砧中学校	29		
● 実施報告(教員研修、その他)			
青森県総合学校教育センター	31	三重県立四日市高等学校	31
● 複製品とキットのみの貸出実績			
平安女学院中学高等学校	32	目黒区立大鳥中学校	32
芝中学校・高等学校	32		
● 学校向け複製品のお貸出について	33		
● おわりに	33		

文化財活用センターについて

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、東京、京都、奈良、九州の4つの国立博物館や東京、奈良の文化財研究所など7つの施設を設置する独立行政法人国立文化財機構に、2018年7月に開設された組織です。あらゆる地域で、子どもから大人まですべての人びとが、日本の文化財に親しみ、身近に感じて、豊かな体験と学びを得ることができるよう、文化財の活用に関する新たな方法や機会の創出を目指し、情報基盤の整備やコンテンツの開発を行っています。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9(東京国立博物館 東洋館5階)
TEL:03-5834-2856 FAX:03-5834-2857



WEBサイト



X(旧Twitter)



Instagram



You Tube

東京国立博物館について

東京国立博物館(トーハク)は明治5年(1872)に生まれた、日本でもっとも歴史のある博物館で、日本とアジアの伝統文化に触れることができます。日本とアジアの絵画、彫刻、工芸、考古遺物などを常時3000~4000件展示しています。収蔵品の数は12万件以上、国宝89件、重要文化財649件を含む質・量ともに日本一を誇る博物館です。東京国立博物館教育普及室では、「スクールプログラム」として、小学校・中学校・高等学校のみなさんが学校の授業で博物館を見学するときに事前学習に使用できる動画の配信や、プログラムを実施しています。

(問い合わせは休館日を除く平日10:00~17:00)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
TEL:03-3822-1111(代) FAX:03-3822-3010(教育普及室)



トーハクWEBサイト



今、私たちが博物館や地域で目にする文化財は、長い歴史の中で人々が四季に合わせて生活をいとなむ中で生まれ、今日まで人の手から手へ受け渡されてきました。文化財活用センターは、文化財を1000年先、2000年先の未来に受け継いでゆかために、保存と活用の両立に留意しながら、多くの人に文化財を通して豊かな体験と学びを得る機会を提供することを目指して、さまざまな活動を行っています。

「ぶんかつアウトリーチプログラム」は、文化財活用センターの発足と同時に開発をはじめ、2019年4月から開始した文化財の高精細複製品を使用する教育プログラムです。高精細複製品の鑑賞などを通じて、見たものに対して何を感じ、なぜそう思ったかを自らに問いかけ、その理由を考える力を養い、また、他者の意見も受容してゆく能力を養うことを第一段階の目的としています。そのうえで、鑑賞が楽しい行為であると実感してもらうことにより、プログラムで見た高精細複製品の本物だけではなく、自分たちの地域や身の回りにある、人の手から手へ受け継がれてきた文化財に興味を持ち、守り受け継いでいこうと思う心の育成を第二段階の目的としています。

文化財に親しみ、守り伝える力を育むきっかけの一つとして開発した事業のひとつですが、コロナウイルス感染症の影響も受けながら4年目の事業を無事に終了しました。2022年度は26機関の受付を行ない、最終的に25機関で実施しました。

本報告書には、受付方法などの詳細やプログラムの概要、経緯を含むコラムとともに、2022年度に講師派遣を行った機関の参加者の感想を含む実施内容を掲載しています。文化財に親しむための活動を行うみなさま、鑑賞の授業を担当する先生方の一助となれば幸いです。

文化財活用センター・東京国立博物館

ぶんかつアウトリーチプログラム概要

「ぶんかつアウトリーチプログラム」は、文化財の高精細な複製品を使用した〈ぶんかつ〉とトーハクの教育普及室が共同で開発を行っている教育プログラムです。全国各地の博物館・美術館や小学校・中学校・高等学校などの現場で活用いただくために、1プログラムの実施時間を45分から90分に設定しており、通常の教室やワークショップスペースなどで実施できる構成としています。一部のプログラムについては基本原稿並びに参考動画をWEBサイトに掲載しました。本プログラムの実施や公開している情報を通じて、多くの教育現場の担当者が、鑑賞の授業や文化財に親しむための活動を楽しみながら実施できることを最終的な目標として、本プログラムに係るほぼ全ての情報を公開しています。

多くの人々に文化財に親しむ機会を提供するため、原則としてプログラムに必要な複製品を含むキット一式は無料で貸し出しを行い、ご希望に応じて、〈ぶんかつ〉またはトーハクから講師の派遣も行います(プログラムの基本的な流れを理解いただいたうえで、利用者の目的に応じたアレンジも可能です)。

本プログラムは、主に児童・生徒を対象とし、博物館・美術館のワークショップや、学校の図画工作・美術・国語・古典などの授業での活用を想定していますが、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、図画工作・美術科の教員研修などでの活用も可能です。また、院内学級や病院の芸術鑑賞会などのイベント・特別支援学校・特別支援級や不登校教室からの申し込みも受け付けています。



実施方法

[A] 複製品を含むキット貸出と講師派遣(事前打ち合わせ必須)

講師は文化財活用センターもしくは、東京国立博物館の職員が担当します。
※ただし、2024年度実施分より、過去2回以上講師を派遣した機関は【B】でお申し込み頂きます。

[B] 複製品を含むキットの貸出(メールもしくは電話による打ち合わせ必須)

利用機関の担当者にプログラムを行っていただきます(講師派遣はありません)。予約完了後、実施ガイドと基本原稿のURLをご案内、複製品の取り扱いマニュアルをメール添付もしくは郵送で送付します。複製品とキットは貸出開始日にお届けしています。

料金

原則として講師派遣費用、輸送費、保険を含め無料(ただし、キット一式に含まれない筆記用具、必要な画材については利用機関でご用意いただきます)。

申し込み方法

事前申込制、年間10件程度(先着順)。毎年、2月中旬頃に翌年度の受付を開始しています。受付開始以降、実施希望日の2か月前までにお申し込みください。
(すでに複製品の使用予定がある場合など、希望に添えず日程の調整をお願いすることやお断りする場合があります。上限に達し次第、受付を終了します。)

そのほか、よくある質問や問い合わせはぶんかつWEBサイトで公開しています。

ぶんかつアウトリーチプログラムの申し込み方法・打ち合わせについて

申し込みの流れ

1. 申し込みフォームを送る

WEBサイトの「ぶんかつアウトリーチプログラム申し込みフォーム」に必要な事項を入力の上、送信する。期限は実施希望日の2か月前まで、フォームの受領順で受け付けています(申し込み多数の場合は、上限に達し次第、WEBサイトでご案内します)。

WEBフォームでのお申し込みができない場合は、WEBサイト「ぶんかつアウトリーチプログラムQ&A」のページにあるFAX用紙でお申し込みください。

ぶんかつアウトリーチプログラム
WEBサイト



ぶんかつWEBサイト
トップページ「複製の活用」
↓
「ぶんかつアウトリーチプログラム」へアクセス



2. 実施可否の案内

実施の可否について、文化財活用センターから10日以内にまずは電話でご連絡します。このタイミングで日程調整を依頼する場合があります。

3. 予約証を送付する

【予約完了】 実施可能な場合は、「ぶんかつアウトリーチプログラム予約証」をメールまたはFAXにてお送りします。予約証を受け取った時点で予約が完了します。内容を確認いただき、齟齬がありましたら、すぐの連絡を依頼しています。

※予約完了後の日程変更はできません。

※2. 実施可否のご案内後、3日以内に予約証が届かない場合も連絡をお願いしています。

※この予約証にて講師派遣依頼状も兼ねますので、利用機関からの講師派遣依頼状などは不要です。

4. 事前打ち合わせ

(3ページ参照)

【A】講師派遣の場合は必須 実施予定日の2週間以上前までに、学習内容、当日の流れについて打ち合わせを行います(講師が実施機関に伺います。訪問日程が調整できない場合や遠方の場合は、電話・メールなどでの打ち合わせとなります)。詳細な利用の目的などをお知らせいただきます。

【B】複製品を含むキットの貸出 訪問・電話・メールなどで打ち合わせを行ないます。ご希望があれば、実施機関に伺っての打ち合わせも可能です。ご希望の方法を、お申し込み時にお知らせいただけます。

※メールなどが利用できない機関の場合は、FAXでのやりとりも可能です。

5. 使用キットのお届け

複製品およびキット一式を送料元払い(または専用車両)にてお届けします。到着後は、必ず内容物一式の状態の確認を依頼しています。

※**【B】複製品を含むキットの貸出** をお申し込みの方は、複製品と一緒に送付する「複製品およびキット借用書」を、同封する返信用封筒で返送をお願いしています。

6. プログラムの実施

【A】講師派遣の場合 文化財活用センター・東京国立博物館の職員が現地に出張し、プログラムを実施します。

【B】複製品を含むキットの貸出 学校の先生や実施館の学芸員など、利用機関の担当者にてプログラムを行なっていただきます。

7. 使用キットの返却

発送時に使用した資材で梱包し、利用期間内に送料着払い(または当方手配の専用車両)で返送いただきます。

※今後の事業並びにプログラム開発に活かすために、利用者アンケートも依頼しています。

受付方法の検討と課題

本プログラム開始当初は、文化財活用センターが発足した直後でWEBサイトなども整備がされていなかったため、2019年度前半の半年間限りFAXのみで受付を行っていました。WEBサイト構築後はフォームにて申し込みをお願いしていますが、機関によってはメールアドレスがない場合やアクセス制限がある場合もあり、現在もFAXによる受付を並行しています。受付は先着順で対応していますが、希望期間の調整が生じる場合があり、調整のやり取りを省く目的で申込段階で詳細な情報入力を設定しています。主な項目は以下の通りです。

機関名/住所/担当者氏名/電話番号/FAX番号/メールアドレス/希望プログラム/実施方法(【A】か【B】か)/講師派遣希望日または【B】の場合の借用希望期間/実施対象と人数/実施回数/事前打合せの希望形式/打ち合わせ講師往訪希望の場合の日時候補日/利用する教科/申し込みの目的・ねらい(詳細に)/実施場所と場所の諸条件(広さ・遮光条件・階数・コンセントの有無・エレベーターの有無)/高精細複製品とキットの保管場所の諸条件(階数)/ほか

上記を申込時にお送りいただくことにより、希望期間が重なった場合の実施可能な候補日やプログラム変更の提案を調整しやすくしました。本プログラムは対象を広くしていることもあり、希望期間が重なるケースが多いため、2022年度に実施した機関の半数は日程変更またはプログラム変更をお願いしました。受付は2022年度分までは2名体制で、2023年度分より3名体制で対応を行っています。2022年度分は申込開始と同時にフォームが届きはじめる、受付上限に達したのは2022年4月4日でした。2023年度分は受付開始と同時に応募が殺到し、受付翌日の2月14日10:30には上限に達したため、現在(2023年7月)は高精細複製品を使用したプログラムの受付を終了しています。

受付の事務処理方法や申込の項目については、開始当初から過不足なく実施できているため変更は予定していませんが、**【B】複製品を含むキットの貸出の申込割合が多くなれば、もう少し受付件数を増やすことができるため、2024年度より過去に講師派遣を2回以上行った機関については【B】でお申し込み頂くように制限を設ける予定です。**この背景には、プログラムをご覧になったり参加された先生方に積極的に実施していただくことにより、より多くの機関で利用ができるようになってほしい、という期待があります。また、学校の先生方が継続して鑑賞の授業を行なうためのツールとしても、本プログラムを機能させたいという目的があります。

事前打ち合わせの流れ

実施機関で打ち合わせの場合

1. 日時の決定・確認

予約時に事前打ち合わせの日時を決定します。事前打ち合わせについては日時の変更が可能ですので、都合が悪くなったなどの場合は利用機関のご都合に合わせて調整しています。

2. 事前打ち合わせ実施まで

打ち合わせ1週間ほど前もしくは前日に、打ち合わせ日時確認の連絡をします(それまでの間に、不明な点や不安な内容があった場合も、随時連絡を受け付けています)。

3. 事前打ち合わせ

(1時間程度)

実施当日にプログラムを担当する講師が、実施する場所もしくは利用機関へ伺います。
①実施場所、②保管場所、③搬入場所(車両駐車スペース)について現場の確認を行います(写真撮影含む)。また、①基本原稿、②キットリスト、③アンケートと一緒に確認いただき、実施する内容と当日の進行について確認を行います。ご利用の目的に応じたアレンジをご希望の場合は、打ち合わせ時に調整を行います。資料は一式を当センターで用意して人数分お持ちしますので、利用者の準備は不要としています。

4. 打ち合わせ内容の送付

(3.の翌日以降)

3.の打ち合わせの内容をまとめたものを、打ち合わせ翌日以降に利用者へ送付します。お互いの理解内容に齟齬がないかを確認します。また、打ち合わせ時の内容から変更することも可能ですが、希望される場合は早めの連絡をお願いしています。

電話・メールまたはFAXによる打ち合わせの場合

1. 予約完了後

予約完了後の早い段階で、担当者より①実施ガイド(【A】講師派遣ありの場合、【B】講師派遣なしの場合いずれも)、②屏風の取り扱いマニュアル(【B】の場合のみ)、③基本原稿、④キットリスト、⑤アンケート、⑥その他サンプルなどを送付します。メールでのやりとりが可能な場合はデータを送付し、難しい場合は郵送で送付しています。

2. 実施1か月前まで

【A】講師派遣の場合

実施場所・搬入場所の写真を文化財活用センターの担当者宛にお送りいただけます。また、当日の流れ・プログラムの内容について、メールなどで打ち合わせを行ないます(Teamsであればオンラインによる打ち合わせも可能としています)。

【B】複製品を含むキットの貸出

搬入場所の写真を文化財活用センターの担当者宛にお送りいただけます。また、基本原稿以外のプログラム案などで実施する場合のご相談は、実施日の1か月前までをお願いしています。ご不明な点等は随時ご相談を受け付けています。

複製品・キットの輸送と取り扱いについて

複製品(屏風)とキットの輸送は、プログラム実施日前に到着するように手配を行い、プログラム当日または翌日以降の集荷・返却としています。講師派遣を行なう場合でも、受け取りと返却は実施機関で対応いただいています。利用機関への到着・集荷時は昇降口などで引き渡しとなり、保管場所への移動は職員または先生方に運んでいただきますので、屏風台車並びに運搬用の台車もお送りしています(ただし、複製品(土偶などのハンズオンレプリカ)のお貸し出しの場合は宅急便を使用するため台車なし)。使用する複製屏風はパネルが6枚つながった屏風ひとつで15~20kg程度、コンテナは5kg程度ですので、到着・集荷時は2名以上の対応を利用機関をお願いしています。

【B】複製品を含むキットの貸出の場合、①実施ガイド、②複製品およびキット借用書、③②の返信用封筒、④複製品の取り扱いマニュアル、⑤作品点検用チェックリストと写真、⑥スクリプト案を同封し、開梱から取り扱い、梱包、輸送業者への引き渡しまで、すべて利用機関で対応いただけます。すべての輸送箱に上下を記し、必要に応じて収納時の写真も貼り付けていますが、送り出した際と同様の梱包状態で返却があることは少なく、複製品の修理が生じたケースもありました。【B】複製品を含むキットの貸出の件数を増やすことも目標ですので、取り扱いについてどのように利用者へ伝えるべきか、検討を行っています。

プログラム

1

自分だけの松林図屏風をつくってみよう!

使用する複製品 はせがわとうはく 長谷川等伯筆 こくほう しょうりんずびょうぶ 国宝《松林図屏風》の高精細複製品★(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

〈トーハク〉が所蔵する国宝《松林図屏風》の複製品を使用した、制作で表現するプログラムです。博物館ではガラスケース越しでないと鑑賞できない屏風ですが、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づいて見ることができます。色やかたち、配置に注目してじっくり見たあとは、屏風型のワークシートに松を描いたり、配置を工夫しながら松の木のスタンプを押したりと、自分だけの松林図屏風を自由につくりまわす。ものづくりを通して文化財を身近に感じることを目的としています。

参加対象 小学校低学年以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分 ※60分や90分など時間を延長して実施することも可能。45分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。

キット一覧	内容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
	ワークシート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
	スタンプセット	37×53×35cm 程度の折りたたみコンテナ	3個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか



文化財活用センター
YouTubeチャンネルで参考動画を
公開しています。

番外編



プログラム実施上の参考情報と注意点

余白を生かした原本の魅力を感じながら自分なりの画面構成を行うことがテーマで、学校向けの構成としては前半で松林図屏風の複製品を鑑賞し、季節や時間、その周りに広がる風景、音や香りなどを想像してもらい、後半で感じたことを画面(屏風型ワークシート)に表現して作品にできるように進めます。後半の制作で使用する屏風型ワークシートは、松林図屏風に描かれている一部の松(右隻いちばん右)と山(左隻いちばん右)のみを残して背景だけを印刷しています。スタンプは作品の画像をもとにして制作した5種類の松のスタンプを利用し、それらを自由に押してオリジナルの松林図屏風をつくりまわす。スタンプにつけるインクを工夫する(スタンプの盤面につけたインクを少し吸い取って薄くする、盤面の一部のみを使用して松の木ではない別のものを表現する、など)ことで様々な表現が可能です。

基本セットのみで実施する場合は、スタンプと黒いインクのみを使用して表現するため、創作活動や言葉で表現することが苦手な子どもでも取り組むことができます。必要に応じて、筆ペン・鉛筆(またはカラーで制作したい場合は色鉛筆など)をご用意ください。参加者が制作する松林図屏風と持ち帰りキットの松林図屏風は同じサイズにしていますので、4枚を並べて楽しむ、自分が作った右側と松林図屏風の左側を飾るなど、色々な置き方を楽しめるようにしています。

本プログラムは制作キットの準備などに人数がいることが望ましいため、講師派遣ありの場合は、講師のほかには必ず1～3名でサポートができる体制で運用しています。キットの準備に約1時間、実施前の会場での準備に約20分、現場での撤収片付けに約20分、戻ってきたキットのメンテナンス・片づけに約1時間を要します(利用者側の運用にかかる詳細はWEBサイトで公開している実施ガイドをご確認ください)。

1. ごあいさつから導入




時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は『自分だけのびょうぶをつくらう!』というテーマで行います。」
	することの説明	プログラムの流れを説明します(話を聞く→じっくり見る→作る→まどめ)
	屏風を知る	<p>屏風全体が見えるように座ったところからスタート</p> <p>参加者に問いかけながら解説を行います。複製品であることもここできちんと伝えます。 「みなさんの目の前にある絵は日本で有名な作品のひとつです」 「みなさんに近くでよく見てもらえるように、本物そっくりに作られた複製品・レプリカを持ってきました」 「この絵の形は屏風といいます。みなさん屏風って知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたてや、パーティションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました」</p>

2. 鑑賞

時間配分	内容	詳細
12分	描かれているものを見る	<p>全体を見る</p> <p>まずは遠くから全体を見てもらい、目に入ってきたものを聞いていきます。 「それでは、描かれているものを見ていきましょう」 「何が描かれていると思いますか?」 回答:木、山、など</p> <p>屏風に近づく</p> <p>屏風に近づいて、描かれているものを細かく見ます。 「何の木に見えましたか?」 回答:杉、松、モミの木、など 「実はこれは松の木です。みんな松の木は見たことあるかな?」 「そのほかには何か見えましたか?」 回答:空気、大気、霧など</p>
	配置に注目する	<p>実際の松林の写真を見せる</p> <p>写生ではないことを感じてもらうための質問です。 「写真のような風景は見たことがありますか?」 「写真の松林と比べて、同じところや違うところはあるですか?」 回答:色が無い、松の本数が少ない、何も描かれてないところがある、など</p>
	色に注目する	<p>墨一色で描かれていることを伝えるための質問です。 「何色が使われていますか?」 回答:黒、灰色、白、茶色など 「墨の表現(太い線や細い線、筆の向きなど)はどうですか?」</p>
	描かれている風景に入り込む	<p>参加者が想像をはたらかせ屏風に描かれている風景に入り込めるような質問をします。 「季節はいつ頃だと思いますか?」 回答:春、夏、秋、冬など 「何時ごろの風景だと思いますか?」 回答:朝、夜明け、夕方、夜など 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答:自分の足音、風の音など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p>
2分	松林図屏風について知る	<p>作業机の席に戻る</p> <p>松林図屏風について簡単に解説します。</p>

3. 制作

スタンプを使用した制作が基本。墨で描きたい、モノクロームではなく色をつけたいなど利用者の目的に応じたアレンジも可能。その場合に必要な画材は利用者で用意。

時間配分	内容	詳細
15分	作り方の説明	<p>自分だけの松林図屏風をつくります。使用する画材の説明を行います。 「ここからは皆さんに屏風の作者になってもらいます」 制作中は参加者が作った作品を見てまわり、声掛けも行います。 ※ 時間内に制作が終わらない場合は、スタンプを数セット延長して貸し出すこともできます。(伝票をお持ちしますので、使用後は着払いにてご返送ください。)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>5種類の松のスタンプ (10セットあります)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>○使用するスタンプ、ワークシート</p>  <p>ワークシート左</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ワークシート右</p> </div> </div>
2分	ワークシートを折って屏風をたてる	博物館から持ってきた屏風と同じ置き方になるように、折り方を解説します。

4. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終りのごあいさつ	頑張ったところや工夫したところを聞き、プログラムのまとめをして終了です。

※利用者の目的に応じたアレンジが可能。

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



文化財活用センターWEBサイトで以下の情報を公開しています(ダウンロード可能です)。

プログラム① 1.実施ガイド 講師派遣なし 先生・講師用		プログラム① 2.複製品・キットリスト	
プログラム① 3.スクリプト・原稿案:45分 先生・講師用		プログラム① 4.スクリプト・原稿案:90分 先生・講師用	

見て、感じて、楽しむ松林図屏風

使用する複製品 はせがわとうはく 長谷川等伯筆 こくほう しょうりんずびょうぶ 国宝《松林図屏風》の高精細複製品★(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

〈トーハク〉が所蔵する国宝《松林図屏風》の複製を使用した対話形式のプログラムです。講師が屏風を取り扱い、ひろげて見せるところから始めます。照明による見え方の違いを感じた後、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づき、作品や描かれているものなどについて見て、感じて、楽しみます。じっくりと見て感じたことをお互いに言葉にすることを通じて、文化財に親しみ、多様な見方を受け入れることを目的としています。

参加対象 小学校3年生以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内 容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか



文化財活用センター
YouTubeチャンネルで参考動画を
公開しています。

番外編



プログラム実施上の参考情報と注意点


言葉を書き留めるためのワークシートなどを一切使用せず、その場で参加者がじっくりと見て感じたことをお互いに言葉に出して共有していく方法論を用います。新型コロナウイルス感染症の状況下ではワークシートを導入せざるを得ない事もありましたが、学校における対策が変更となった現在は、ワークシートは使用せずに高精細複製品と向き合って鑑賞を行なっています。プログラム①の前半部分をそのまま抜き出した形で、利用機関の目的に応じてまとめをアレンジしながら実施してください。言葉を共有して認め合っていく過程で重要なことは、参加者の感じたことを否定しないことです。美術史の学問分野では作品に対する研究が行われ、様々な情報がありますが、まずは参加者が感じたことについて「どこを見てそう思ったのか」「なぜそう感じたのか」など考える力を養う問いをかける点に重きを置いていただくことをお進めしています。

本プログラムは講師1名でも実施可能な構成にしていますが、屏風の重量があるため、屏風を取り扱う際には1名サポートがいる体制での運用が望ましいと考えています。キットの準備に30分、実施前の会場での準備に約10分、現場での撤収片付けに約20分、戻ってきたキットのメンテナンス・片づけに30分程度を要します(利用者側の運用にかかる詳細はWEBサイトで公開している実施ガイドをご確認ください)。

1. ごあいさつから導入

時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は『見て、知って、楽しむ日本の美術』というテーマで行います。」
	することの説明	プログラムの流れを説明します(話を聞く→じっくり見る→まとめ)

2. 解説

時間配分	内容	詳細
8分	屏風をひろげる	<p>屏風全体が見えるように座ったところからスタート</p> <p>講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。 ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは蛍光灯)の合計3種類の光でお見せします。</p> 
	屏風を知る	<p>参加者に問いかけながら解説を行います。複製品であることもここできちんと伝えます。</p> <p>「みなさんの目の前にある絵は日本で有名な作品のひとつです」 「みなさんに近くでよく見てもらえるように、本物そっくりに作られた複製品・レプリカを持ってきました」 「この絵の形は屏風といいます。みなさん屏風って知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたり、パーテーションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました」</p>
5分	作品の第一印象を共有する	<p>作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。</p> <p>「第一印象は?見てどんな感じでしたか?」 「何が書いてあるように見えますか?」 「この絵の中で、何が起こっているんですか?」 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 「どんな匂いがしそうですか?」</p>

3. 鑑賞

時間配分	内容	詳細
17分	描かれているものを見る	<p>全体を見る</p> <p>まずは遠くから全体を見てもらい、描かれているものや目に入ってきたものを聞いていきます。</p> <p>「それでは、描かれているものを見ていきましょう」 「何が描かれていると思いますか?」 回答:木、山、など</p> <p>屏風に近づく</p> <p>屏風に近づいて、描かれているものを細かく見ます。</p> <p>「何の木に見えましたか?」 回答:杉、松、モミの木、など 「実はこれは松の木です。みんな松の木は見たことあるかな?」 「そのほかには何か見えましたか?」 回答:空気、大気、霧など</p>
	配置に注目する	<p>実際の松林の写真を見せる</p> <p>写生ではないことを感じてもらうための質問です。</p> <p>「写真のような風景は見たことありますか?」 「写真と比べて、松林の同じところや違うところはあるですか?」 回答:色が無い、松の本数が少ない、何も描かれてないところがある、など</p>
	色に注目する	<p>墨一色で描かれていることを伝えるための質問です。</p> <p>「何色が使われていますか?」回答:黒、灰色、白、茶色など 「墨の表現(太い線や細い線、筆の向きなど)はどうですか?」</p>
	描かれている風景に入り込む	<p>屏風に描かれている風景に、参加者自らが入り込める質問をします。</p> <p>「季節はいつ頃だと思いますか?」 回答:春、夏、秋、冬など 「何時ごろの風景だと思いますか?」 回答:朝、夜明け、夕方、夜など 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答:自分の足音、風の音など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p>
2分	松林図屏風について知る	<p>席に戻る</p> <p>松林図屏風について簡単に解説します。</p>

4. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	利用者の申し込みの目的に応じたプログラムのまとめをして終了です。

※利用者の希望に応じたアレンジが可能

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風左



ミニチュア屏風右



高精細複製品の
パンフレット

文化財活用センターWEBサイトで以下の情報を公開しています
(ダウンロード可能です)。

プログラム②

1.実施ガイド

講師派遣なし | 先生・講師用



プログラム②

2.複製品・キットリスト

先生・講師用



プログラム②

3.スクリプト・原稿案

先生・講師用



プログラム

3

見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風

使用する複製品 おがたこうりん さかいほういつ じゅうようぶんかざい ふうじんらいじんず なつあきくさず びょうぶ
 尾形光琳／酒井抱一筆 重要文化財《風神雷神図／夏秋草図屏風》
 の高精細複製品(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

〈トーハク〉所蔵の重要文化財《風神雷神図／夏秋草図屏風》の複製を使用した対話形式のプログラムです。風神雷神図／夏秋草図屏風の原本は保存のため裏と表を分けて保存していますが、高精細複製品は表裏を一体にして作品の元の姿を再現しています。プログラムは照明による見え方の違いを感じた後、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づき、作品や描かれているものなどについて見て、感じて、楽しめます。じっくりと見て感じたことをお互いに言葉にすることを通じて、文化財に親しみ、多様な見方を受け入れることを目的としています。

参加対象 小学校3年生以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横6メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 2曲1双	180×150×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ござ 4畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか



文化財活用センター
 YouTubeチャンネルで参考動画を
 公開しています。

番外編



プログラム実施上の参考情報と注意点

本プログラムもプログラム②の松林図屏風と同様に、言葉を書き留めるためのワークシートなどを一切使用せず、その場で参加者がじっくりと見て感じたことをお互いに言葉に出して共有していく方法論を用います。本作品の特徴は、風神雷神図屏風が描かれた約100年後に夏秋草図屏風が裏に描かれたことにあるため、2作品の鑑賞を行いつつ裏と表の関係性について理解してもらうための時間配分に注意をお願いしたいと思います。また、教室の広さや作りによって屏風の裏表を逆にする取り扱いが生じてしまうため、参加者が移動することによって裏と表を見ることが出来るスペースでの実施が望ましいと考えています。学校などで実施する場合、対象が小学生の場合は風神雷神図屏風から、中学生以上の場合は夏秋草図屏風からの実施をお進めています。小学生の場合は前提となる知識がない事が多く一斉に学びますが、地域内の学区が異なった小学校や中学校から生徒があつまる中学・高校では前提となる知識が異なる場合が多く、見たことが少ないであろう夏秋草図屏風から進めていただくと、自分で見て感じる鑑賞を受け止めやすくなります(なお、2023年度よりプログラムそのものを夏秋草図屏風から始める形に変更しています)。

本プログラムは講師1名でもできるような構成にしていますが、途中で屏風を動かす場合は講師のほかに1名サポートがいる体制での運用が望ましいと考えています。キットの準備に30分、実施前の会場での準備に約10分、現場での撤収片付けに約20分、戻ってきたキットのメンテナンス・片づけに30分程度を要します(利用者側の運用にかかる詳細はWEBサイトで公開している実施ガイドをご確認ください)。

1. ごあいさつから導入

時間配分	内容	詳細
4分	ごあいさつとテーマ	講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は『見て、知って、楽しむ日本の美術』というテーマで行います。」
	東京国立博物館とレプリカ(複製)について	東京国立博物館とレプリカ(複製)についてお話しします
	することの説明	プログラムの工程を説明します(話を聞く→じっくり見る→まとめ)

2. 解説

時間配分	内容	詳細
8分	照明演出	<p>〔屏風全体が見えるように座ったところからスタート〕</p> <p>屏風の色の変わり方を見る ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは蛍光灯)の合計3種類の光でお見せします。</p> 
	屏風を知る	<p>参加者に問いかけながら解説を行います。</p> <p>「この絵の形は屏風といいます。みなさん屏風って知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたてや、パーテーションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました」</p>

3. 風神雷神図屏風の鑑賞と解説

時間配分	内容	詳細
10分	作品の第一印象を共有する	<p>作品をいろいろな角度や場所からじっくり鑑賞し、風神雷神図屏風の表現について理解するために、作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。</p> <p>〔全体を見る〕 まずは遠くから全体を見てもらい、描かれているものや目に入ってきたものを聞いていきます。 「気になったところはありませんか?」「第一印象は?見てどんな感じがしましたか?」 「何が書いてあるように見えますか?」 回答: 天空を舞う神様、鬼など</p>
	描かれているものを見る	<p>〔屏風に近づく〕 「何を持っているようにみえますか?」 回答: パチ、タオル、など 「ふたりの神様は何を思っているのでしょうか?」 回答: 戦って、待ち合わせしている、など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。 夏秋草図屏風につなげるための問いかけを行います。 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答: 雷と風の音、など 「風はどのように吹いているように見えますか?」 回答: 右から左、左から、など 「どんなお天気だと思えますか?」 回答: 台風みたい、荒れていそう、など</p>
2分	解説	必要に応じて、講師が風神雷神図屏風の解説を行います。

4. 夏秋草図屏風の鑑賞と解説

時間配分	内容	詳細
15分	作品から受けた印象を共有する	<p>〔後ろに回ってもらおう〕 裏の絵もいろいろな角度や場所からじっくり鑑賞し、風神雷神図屏風の表現について理解するために、作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。 「このびょうぶには何が描かれていると思えますか?」 回答: 草、花など 「音は聞こえると思えますか?」 回答: 草がすれる音、何も音はしない、など 「天気や気温はどれくらいだと思えますか?」 回答: くもり、雨、など 「季節はいつごろだと思えますか?」 回答: 秋、など 「何時くらいの風景だと思えますか?」 回答: 暗いから夕方、朝、など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p>
2分	解説	講師が夏秋草図屏風の解説を行います。

5. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	<p>表と裏を見て ・風の神さまの裏に、風に吹かれている秋草の様子 共通点: 風 ・雷の神さまの裏に、雨に打たれた夏の草花の様子 共通点: 雨 反対の意味をもって描かれたもの ・金と銀 ・天空の神さまと地上のいつでも見ることができそうな風景 ・自由に動き回っているような神様といつか枯れてしまう草花 があることを含めて、利用者の申し込みの目的に応じたプログラムのまとめをして終了です。</p>

※利用者の希望に応じたアレンジが可能

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布(持ち帰り用ミニチュア屏風も裏表になっています)。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風 風神雷神図屏風



ミニチュア屏風 夏秋草図屏風

文化財活用センターWEBサイトで以下の情報を公開しています(ダウンロード可能です)。

プログラム③

1.実施ガイド

講師派遣なし 先生・講師用



プログラム③

2.複製品・キットリスト

講師派遣なし 先生・講師用



プログラム③

3.スクリプト・原稿案

講師派遣なし 先生・講師用



絵で読む平家物語

使用する複製品 へい け の も の が た り い ち た に や し ま か っ せ ん ず び ょ う ぶ
 《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》の高精細複製品★(イギリス・大英博物館所蔵)



© The Trustees of the British Museum (2017).

プログラムのねらい

古典「平家物語」のさまざまなシーンが描かれた《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》(イギリス・大英博物館所蔵)の複製を使用するプログラムです。右隻には「敦盛の最期」など、「一の谷合戦」にまつわる21のエピソードが、左隻には「那須与一の扇的」など、「屋島合戦」にまつわる8のエピソードが描かれています。どちらも教科書でもなじみの深い場面です。原文や現代語訳を参考にしながら、描かれた場面や人物をじっくり見ることによって、自分たちの感性を通して古典を生き生きと学び、文化財に親しむことを目的としています。

参加対象 中学校2年生以上

参加人数 最大40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分 ※60分や90分など延長も可能、45分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 国語、古文、古典、美術など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内 容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

番外編



文化財活用センター
 YouTubeチャンネルで参考動画を
 公開しています。



プログラム実施上の参考情報と注意点

「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」の高精細複製品は、在外の日本美術の名品の高精細複製品を制作し、日本国内の美術館博物館等に寄贈して活用をはかることを目的のひとつとする文化財未来継承プロジェクト(通称:綴プロジェクト <https://global.canon/ja/tsuzuri/>)によって、2018年に独立行政法人国立文化財機構へ寄贈された複製品です。


国語、美術、日本史など、教科横断型の特別授業などでも利用できることから、高等学校からのお申し込みが多く、また講師派遣なしの実施がいちばん多いプログラムです。スクリプト案は利用機関の担当者にデータ送付していますが、国語、美術、日本史などに寄せて鑑賞ができるように構成しています。また、教科横断をご希望の場合も、事前打合せで調整しています。講師派遣なしの場合は、開発側の意図を超えた教科横断型での利用も多くみられ、「様々な本文を読んで描かれた場所を見つける」「国語・美術・日本史の先生が平家物語の魅力を語る」「琵琶の奏者をお招きして屏風の前で実演してもらう」など、利用者が柔軟にプログラムを利用することも可能です。スクリプト案が長い場合、講師派遣なしで利用される場合は、明確な利用目的を知らせていただく必要がありますのでご注意ください。

本プログラムは講師1名でも実施可能な構成にしていますが、屏風の重量があるため、屏風を取り扱う際には1名サポートがいる体制での運用が望ましいと考えています。キットの準備に30分、実施前の会場での準備に約10分、現場での撤収片付けに約20分、戻ってきたキットのメンテナンス・片づけに30分程度を要します(利用者側の運用にかかる詳細はWEBサイトで公開している実施ガイドをご確認ください)。

1. ごあいさつ

時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	(屏風全体が見えるように座ったところからスタート) 講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は『絵で読む平家物語』というテーマで行います」
	流れの説明	あわせてプログラムの流れ(お申し込みの目的によって変わります)を説明します。 複製品であることをここできちんと伝えます。

2. 鑑賞・解説

時間配分	内容	詳細
8分	屏風をひろげる	講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。 ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは蛍光灯)の合計3つの光でお見せします。 
5分	作品から受けた第一印象を共有する	作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。 「第一印象は?見てどんな感じがしましたか?」 「何が書いてあるように見えますか?」 「この絵の中で、何が起こっていきそうですか?」 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 「どんな匂いがしそうですか?」

ここまでは利用者の目的にかかわらず、共通して行います。この後の解説は、目的や参加者の意見に応じて、参加者が鑑賞する時間を挟みながら内容を選択して行います。

25分	文化財の見方	屏風の基礎的な知識として、屏風の使い方、屏風の構造、絵の描かれ方についてお話しします。美術などの授業で活用される場合は、雲や大地の表現、海の色、肌の色、線の描き分けなどに注目しながら、日本画の表現や材料、必要に応じて複製ができるまで、などをお話しします。
	この作品について	モチーフの選び方、構図など「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」の作品についてお話しします。
	古典、物語について	右隻の一の谷合戦から「鶴越の坂落とし」「敦盛の最期」、左隻の屋島合戦から「那須与一の扇的」を取り上げ、文学と絵画の観点からお話しします。
	表現について	描かれた表現から、地形や距離、甲冑や刀、公家と武家の身分の違い、源平の違い、物語と史実の違いなどに着目して解説します。

3. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	気づいたことや新しい発見など、参加者の意見をまとめてプログラムを終了します。

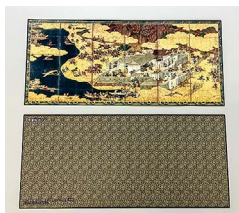
※申し込みの目的と、参加者の意見や発言に応じて様々な観点から解説を実施。利用者ご自身によるアレンジも可能。

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風左



ミニチュア屏風右



高精細複製品の
パンフレット

文化財活用センターWEBサイトで以下の情報を公開しています
(ダウンロード可能です)。

プログラム④

1.実施ガイド

講師派遣なし 先生・講師用



プログラム④

2.複製品・キットリスト

講師派遣なし 先生・講師用



※プログラムのスクリプト・原稿案は、予約が完了した機関のご担当者様にデータ送付します。

機関名	品川区立大井第一小学校 (〒140-0014 東京都品川区大井6-1-32)
実施プログラム	②見て、感じて、楽しむ松林図屏風
日時	2022年4月25日(月)8:45-9:30、9:35-10:20、10:40-11:25、11:30-12:15
参加対象・人数	140名(6年生4クラス)
実施場所(保管場所)	メディアルーム・校舎3階・エレベーターなし(同)

利用者の目的・ねらい(図画工作担当教諭)

「ひとつの色で表す絵」という題材で絵具一色の濃淡を使い分けて絵を描くという活動を行なった後に水墨画に挑戦するが、制作の前に鑑賞を行ないたい。また、実寸大の松林図屏風を鑑賞することで墨の濃淡による空間表現や水墨画の感じに気づかせたい

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールのやり取り。基本スクリプトに沿って実施。事前学習なし、目的・ねらいに応じて実施する。事後に目的・ねらいの通り「墨であらわす世界」の導入を実施してから制作を行なう予定。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

Q.発見!松林図屏風を見てわかったこと、面白かったことはなんですか?

- ・内側をぬるのではなく、外側を黒くすみでぬることで山を表現していた。また、うすい木やこい木があり、こい木が近くにあり、うすい木がとくにある感じが絵から出てきていた。
- ・すみだけを使ったようには見えなかったです。よはくがあって、あえてそこになにかかいていないのがいいなと思いました。
- ・明るさや角度によって絵の見かた・考えかたがかわり、一色で表すことのできるせんさいな技がすごいと感じた。自分は、木のまわりが少しぼやけていて、明暗のように感じた。遠くにある・近くにあるを表現するために色をこくする・うすくすることによって、目立たせ、見やすくするようになってよかった。一つ一つに作者の心や思い入れをかんじた。
- ・いろいろな見方ができる絵はおもしろいと思いました。近くから見るとせんさいな部分に目を向けられるな~と思った。
- ・しゃがんで見たり、遠くから見たり、近いところで見たり、色んな所から見ると季節や風景などがちかく見えたので面白いな、と思いました。また、明かりの色でも屏風の見方が変わったので、そのちがいが面白いなと思えました。
- ・遠い物はうすく、近い物はこくして、まるできりがかかっていたり、くもりの日のように感じた。また、一色だけで濃さを調節しながらこんな絵をかけるんだと感動しました。
- ・遠くから見たり、近くから見たり、見方を変えてみたら、自分なりににはきりに見えたり、林に見えたりしたことが不思議で興味がありました。びょうぶのことはまえから知っていたけど、円にしたり四角にできたりすることが可能なんだ!と初めて知れました。びっくりしました。
- ・一つの色なのにいろいろなじびゅつがつかわれてびょうげんがゆたかだった。もっといろいろな作品を見てみたいです。また美術館に行ってみみたいです。
- ・先生に自分絵の中に入った時、どんなかこうでいるかと思いませんか?と聞かれたとき、自分は秋や冬の間のさむいイメージがあったので、なぜかそうなんしているイメージがあったので面白かったです。自分はさむい地域に見えました。
- ・木が目前にあるように思えたのが面白かった!

- ・実際にかいてみたいと思った。ふでをつかってかいているのかなと思うなど、予想をたてて見るのが面白かった。
- ・明かりが違うだけで、雰囲気は全くちがって面白かったです。また、木や、山だけなのに、色々書いてあるように見えて、スゴイと思いました。さらに、一色(黒)だけなのに、濃淡を使い分けることで、色々な色が生まれていて、感動しました。
- ・濃淡をつけることによって、とても幻想的な感じになっている。また、針葉樹の針のような質感をとても忠実に再現していて、実物大の屏風で見ると、とてもはく力があつた。
- ・色の濃淡がはげしかったり、葉と枝では色の濃さがつかいわけられていてすごいと思いました。
- ・「これはどんなでこれはこんな木だね」と友達との考えと自分の考えをくらべあう時間が楽しかったです。あと、しぜんでみる作品はなにかちがってみえました。
- ・ものすごく美しくきれいだったのでばくも作ってみたいと思いました。
- ・光のあて方によってみえ方があんなにかわるのは、初めてでした。昔絵をかいていた人は、みえ方がすごくかわるので大変だったのかな?とおもいました。
- ・松林図屏風を見て、最初は何の絵かわからなかったけど、よくみたら、松の木があつてそっちに風が吹いたりしてた。黒いものだったから、作者が悲しい気持ちをしていたのかな?と考えることは面白かったです!屏風の絵をもっと知りたいです!
- ・屏風は遠くから見たら、友達が言っていたように雨がふっていてきりがかかっているような感じがして近くで見たら晴れの時、夕方ごろに見えました。
- ・人が書いたと思えないほどこまかくてせんさいだった。
- ・左の紙の右上の山ぎづかなかつたです。すごく細かくなっていて見ておこされるようなかんかくです。濃淡だけでこんなにかわるものかと思いました。そしてふんいきがとてもかっこよく、みどりや茶色使ってるんじゃないかとうたがうすごさです。どこがちがうか分かりませんが私の絵と比にならないくらい上手なのは分かります。

Q.もっと知りたいことはありますか?

- ・もう少し前にえがかれた絵ともう少しあとにえがかれた絵のちがいがどのようなことなのかを

- ・調べたり、本当の絵を博物館に行って比べてみたい。昔のほうが技術がはつたついでないため、少しあとにつくられた絵のほうが「すごい」と思ってしまう気がする。
- ・もっといろいろな屏風を見てみたいです。こんかいの屏風はすみだけを使ってかいていただけ、ほかの作品は、色を使って作っていたりするのを見てみたいです。
- ・同じ時代の他の絵とも比べて、それぞれの特徴やすごさをさがしたい。そうすることで、昔の文化についてよりくわしくわかると思う。
- ・びじゅつかん、はくぶつかんをいつかきじゅくりみて学習していきたいです。どんな絵がよかつたなとかとふりかえってみたいと思います。
- ・びょうぶの昔の配置のしかたなどもしりたいな~と思いました。いちど昔の世界にいてびょうぶを見てみたいしたたみの上や本当のろうそくなどでてらして見てみたい。
- ・むかし時代のどうやってすみでかいた絵をいままで保管してきたのかということ。
- ・びょうぶは具体的にどこで使われていたのか(道具として)いつの時代から使われているのかを調べてみたいと思いました。あと、おばあちゃんの家にもびょうぶがあつたような気がしたので確認したいと思いました。おばあちゃんはどういう「びょうぶ」などにくわしいと思うので聞いてみたいと思いました。
- ・他の屏風とかも気になる。あと、屏風を作る職人とかもいたのかも気になる。
- ・1つで濃淡をつけることで見る人にこんなに感動させることができるのかととてもおどろきました。なので、今度は実際に作っているところを見てみたいと思いました。また、葉のトゲトゲした感じをどのようにしてあらわしているのか知りたいです。←自分が描くときの参考にしたいです。



利用者の意見・感想・参加者の反応など

照明の違いで見えるかんじが変わったり、写真と見比べたときのかんじを考えさせたりと、子どもたちが様々な視点で鑑賞できるよう授業をしていただきました。あきてしまう子の数人見受けられましたが、ほとんどの子が興味をもって鑑賞していました。

機関名	三重県立四日市高等学校 (〒510-8510 三重県四日市市富田4-1-43)
実施プログラム	④絵で読む平家物語
日時	2022年5月30日(月) 10:05-11:10、11:20-12:25 ※16:00より特別授業 31日(火) 8:50-9:55、10:05-11:10、11:20-12:25
参加対象・人数	105名(1年生選択授業8クラス)
実施場所(保管場所)	美術室・校舎1階・エレベーターなし(同)

利用者の目的・ねらい(美術担当教諭)

本物の大きさや、屏風の機能性、日本美術に親しむ鑑賞の方法を考えた時、屏風の鑑賞をしたいと考えたため。また、鑑賞から学んだことを絵(貝合わせ・貝覆い)に描く取り組みをしたく、細かく描かれ、物語を読み取れる平家物語の鑑賞を実施したい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

メールのやり取りを行ない、プログラム前日に講師往訪の上で打ち合わせを実施。先生のご希望に沿った授業案に変更。事前は行なわず、事後に目的・ねらいの通り貝合わせ・貝覆いの制作を行なう予定。

参加者のフォーム内容紹介(先生による設問、一部抜粋 ※すべて原文のまま)

Q.1 屏風を観て(視覚的に)わかることはなんですか? see 見る

- ・金色で描かれた雲と地面には境目がないこと。
- ・船の上で頬杖をつきながら退屈そうにしている武士がいること。
- ・空から見た視点で描かれているように見えること。
- ・1人1人の顔の表情がそれぞれ細かく描かれていたこと。
- ・屏風はもともと道具として使われていたが細かいところまで丁寧に描かれているということ
- ・濃淡がはっきりしている
- ・同じ人物が何度も登場している。
- ・人がたくさんいて、戦っていることがわかる。海の真ん中に大きな船がある。
- ・屏風の細かい表情や行動の特徴、その人の服装から立場などが分かった。
- ・雲と、地面が同じ素材。人間一人一人にそれぞれ顔がある。
- ・源平の戦いの様子が描かれている。全体が金でできていて、明るい。
- ・遠目から見ると、全体的に金色で高級感のある感じだったが、近くで見ると血生臭く色も鮮やかだったので、見る位置によって印象が全然違うんだなと思った。
- ・遠くからみると雲と大地が混同していて、平家物語の流れを感じる。近くで見ると馬の毛の一本一本などが精密に描かれていたり、色や格好から身分、性格や気持ちがわかる。馬によってかなり模様が違い、中には金魚や牛のような見た目をしているものもあった。鮮やかではないように見えたが、近くによると波の色や炎、旗などいろんな色が使われているのがわかる。
- ・屏風の縁の布の色と屏風全体の色が合っていて、統一感と華やかな感じがする。
- ・戦いの最中である。「海を挟んでいる」右側から左側へと逃げていっている
- ・海の深さと金雲から立体感があり実在する空間だと強く感じた。
- ・1人1人の表情が細かく描かれていた。波の動きも想像しやすかった。馬?か鹿が弓で射られていたり人の首がなかったりという場面もしっかりと

描かれていた。

Q.2 なにを感じますか? Think 考える

- ・現実的な表現よりも美術的な表想が良かった、また、屏風の絵自体に一貫性をもたせたかった。
- ・あまり戦に興味が無い者もいた。
- ・絵の中の空間を広げ奥行きで迫力と臨場感をだした。
- ・細部まで、使う人をもっていた。
- ・照明の色やあたりぐあいによって、見え方が暖かかったり冷たかったり色々違うんだと思った。
- ・暗いイメージ 金色の部分も若干暗い色が混ざってる
- ・金の部分が多くて、高級感を感じる。
- ・那須与一が、扇の的を、射ていたり、崖から義経達が、降りてきて、地面にいる人たちが慌てている様子があり、それぞれの場面で、それぞれの心情が描かれていた。
- ・源氏と平家の熱い戦いのある一瞬が細かく、忠実に表現されていて、実際に見たわけではないのにここまで描けるのはすごいと思った。
- ・天地がつながっている。
- ・もっと一部分が描かれているのかと思っていたので平家物語の全体図のようなもので驚いたが、ちかくに寄ってみると弁慶が弁慶だっただけのほど忠実に表現されていた。
- ・単に戦の場面を描いているのではなく、人物一人一人の物語が描かれているので、ずっとみても飽きることがないなと思った。
- ・雲と大地の混ざりは見えていて錯覚というか、不思議な感じがしてくる。筆のタッチから、荒々しい感情のうねりや那須与一のピンと張り詰めた空気感、逃げる平家の焦っている様子が伝わってくるようだった。下から見上げると金の雲がキラキラして、あまり立体的ではない絵なのに地面と空を感じる事ができた。
- ・屏風を真っ直ぐみると俯瞰している感じだが、下から座って見ると自分も地面に立っているような目線になったので、屏風を使う人が楽しめるようにしたのかなと思った。
- ・人々のその時代の気性や武士としての心構えが

切り取られた一瞬から部分部分の行動から読み取れると感じた。

Q.3 ひっかかる所はなんですか? Wonder 疑問

- ・どうしてあんな構図にしたのか(わざわざ違和感を覚えるような)。
- ・なんで地面を土色にしなかったのか
- ・雲の形は一つ一つ何か理由があってそのような形になったのかその作者の気分でそのような形になったのか
- ・人を出迎える時になぜ争いの場面を描いた屏風を使ったのか
- ・将軍のような人がいて、将軍の首を敵に取られたら戦は終わりというのを習ったけれど、護衛として将軍の周りにいる人が少ないんじゃないかなと思った。
- ・実際に戦をみて描いたのだろうか疑問に思った。
- ・江戸時代のイケメンの基準はなんだったのか。豪華な舟に乗っている人は誰なのか。なぜ那須与一はかなり目立つように描いてあるのに、義経は「ウォーリーを探せ」くらい目立たないのか。どういう人がどこに、いつの季節に飾っていたのか。真ん中に偉い人が座ると那須与一が見にくいので、自分なら外と並行になるように置くと思う。
- ・平家は仲間がどんどん少なくなって、不利になっても、あきらめずに源氏にたちむかっていったのだろうかと思った。陸?空は誇り高い平家の負けないう思いの表現がされているのかなと思った。鹿が殺されていたり、戦場に高貴な女の人がいったりしたのが気になった。



利用者の意見・感想・参加者の反応など

屏風の作品が美術の教科書だけではなく、他教科の教科書にもよく掲載されているため、実物の屏風で深くじっくり鑑賞出来る事が高精細の屏風では可能でとても良かったです。作品をよく見ている生徒が多く、様々な場面が制作への意欲にもつながりました。また、絵に浮いて会話がはずむ鑑賞の時間になりました。生徒がとても興味深く平家物語を鑑賞出来ましたので、高校生に関心をもたせる事ができる屏風で、お借り出来て良かったです。

その他

取材: 中日新聞北勢版、日本文教出版
見学: 三重県総合博物館
三重県立美術館
金沢美術工芸大学
三重県教育委員会

機関名	江戸川区立東小岩小学校 (〒133-0052 東京都江戸川区東小岩4-12-1)
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風
日時	2022年6月10日(金)10:25-11:10、11:20-12:05
参加対象・人数	66名(4年生2クラス)
実施場所(保管場所)	体育館・校舎2階・エレベーターなし(図工準備室・校舎1階)

利用者の目的・ねらい(図画工作担当教諭)

「風神雷神」を鑑賞して、展覧会の作品に生かしたい。見て、感じて、表現させる。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

2021年度中止による再申し込み、講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかFAXによるやりとり。通常のスクリプト案で実施。事前学習は色鉛筆による模写と調べ学習、事後学習ではクレパス・絵の具・金のアクリル絵の具を使用して屏風絵を制作。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

Q.びょうぶを見てわかったこと、おもしろかったこと
をおしえてください。

- ・最初の時は、まわりの色が金色じゃなかったのにあかりをつけたら、金色だったところ。ふうじん、らいじん、りょうほうとも強そうだったのでいっしょにたかかったらどっちが強いんだろうとおもいました。うらのえが予想とちがくてちょっとなんでこういうえにしたのだろうと思いました。
- ・風神も雷神も角や頭に毛がはえていたので風神も雷神もおにに見えた。風神も雷神もシャツ1まいだけだったので暑い場所にいると思った。夏の方は雨がいっぱいふっていて、秋の方は風がふいていてどちらも場所がちがいがあっておもしろかった。
- ・屏風は明るさで屏風の絵の感じが変わるなんて思わなくてびっくりした。さらに夏秋草図屏風は風神と雷神と関係があるとは思ってなくてさらに予想とぜんぜんちがったからすごかったです。
- ・風神雷神に角があったのでおにみたいだなと思いましたが、神様だったのでおどろきました。
- ・よくみたらかみの毛や、形いろんなところがこまかかったです。さいしょは少しこわいイメージだったけれど、よくみるとすごいと思いました。
- ・風神雷神のびょうぶを見たら、色の感じ、光のあたり方によって見え方がちがうんだなあと感心しました。風神と雷神では、雷神の方は好きだったけれど、風神も好きになった。
- ・びょうぶは大きくてはくりょくがありました。はいけいがひかっているすてきでした。約400年前にびょうぶはえがかれたということをしりました。びょうぶのうしろにもえがかれていたということをはじめとしたし、ちゃんといみがあったということもおどろきました。
- ・あの絵を400年前にかいたなんてしんじられないほど上手でした。東京国立はくぶつかんもいつてみたいです。
- ・風神と雷神に角が生えているのがわかったけど風神の角は一本で雷神の角は二本あって角の数がちがうのに気づいた。
- ・手首、足首に金色のプレスレッドをつけていてもにっているのがかっこよかった。

- ・風神雷神のかみのけがふさふさでぐらでーしょんできれいだった。どちらともきんにくがあるのでちからもちそう。雷神がてばちみたいのもっていて風神がもうふみたいなやつをもっていた。うしろには、みずたまりやくさやゆりの花やいろいろな花がかいてあった。
- ・風神雷神や夏秋草図屏風のかかっている屏風は、ざらざらしてそうで、あとみたいのがついていた。昔の時代の光などが味わえて楽しかった。
- ・しょう明と自然の光とでは見え方がちがった。はく力がすごかった。うらの絵が思っていたのとちがったけれど話を聞いて見たらなるほど!と思った。
- ・ちかくで見たら思っていたよりも大きかったです。あしや手につけていたのは金ばくでぬらわいてまっ黒なくもにっていました。あんなにちかくで見られるとは思わなかったのですこどきどきしました。
- ・風神と雷神でにるとこや、ちがうところがいっぱいあった。暗くしたり明るくして見ると見え方がぜんぜんちがう。うらに描いてある絵がすごい。

- ・どうしてうらに絵を書いたのかがふしぎに思いました。
- ・なぜ水や火などがあるのに風と雷なのか知りたかったです。
- ・なんで日本のびょうぶは日光によわいのかなと思いました。
- ・風神と雷神はライバルなのか。
- ・風神はつの1本で、雷神は2本のつなののか。
- ・風神のもっているふくろが大きそうなので雷神のたいことどちらが大きいのかなって思います。
- ・どうして風神や雷神のまわりにある雲は白ではなく黒でえがかれているのかということ。
- ・下からでらすと黄色ぼくて、ふつうに光をあびると金色になるのはどうしてか。
- ・風神雷神はどんなやくめがあるかもっとしりたいです。
- ・なんで風神雷神はおたがいをみるむきなっているのか。
- ・風神のはだはなんでみどり色なのかふしぎ。

Q.もっと知りたいことはありましたか？

- ・風神と雷神で風のふき方がちがうことがわかった。下からあてる電気は、あまり金色が目立たなかったけど、自然の光をあてると金色がかがやいていて目立つようになった。
- ・ほかのゆう名な絵を見てみたいです。
- ・なんで雲が黒なのか？
- ・もっと水の神か氷の神のことをいろいろ知ってみたいです。
- ・雨の神もいるのかなと思いました。いろいろな神もいるのかなと思いました。
- ・風神雷神はなんではなれているのか少しふしぎに思いました。(ソーシャルディスタンス?)
- ・ほかには、どんなびょうぶがりのか知りたいです。風神雷神がいがいにもにっているような神様は、いるのか知りたいです。
- ・びょうぶのふちについていた葉っぱの形をしたかなぐがとても気に入りました。
- ・風神雷神は神さまだけど、風や、雷がどうしてできるのかと思いました。



利用者の意見・感想・参加者の反応など

レプリカを間近で鑑賞出来て良かったです。当日の生活や夜の雰囲気も感じることができました。子供も大人も興味津々、ワクワクでした。素晴らしくきめ細やかな演出、ありがとうございました。完璧でした。

機関名	足立区西保木間小学校 (〒121-0812 東京都足立区西保木間4-2-1)
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風
日時	6月21日(火)9:30-10:15、10:35-11:20、11:25-12:10
参加対象・人数	96名(4年生1クラス・5年生1クラス・6年生1クラス)
実施場所(保管場所)	体育館・校舎1階・エレベーターなし(和室・校舎1階)

利用者の目的・ねらい(図画工作担当教諭)

6年生の図工で立体模写をするため、名画の歴史や鑑賞について深めたい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールによる打ち合わせ・配置図などの共有。先入観をなくするため、事前学習は実施せず。スクリプト案通りにプログラムを実施。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

- (4年生)**
- ・風神と雷神が全く同じではなく、ちがうところがあっておもしろいと思いました。(たとえば、つこの数、きば…などです。)
 - ・とびたしそうな絵でした。はくりょくがありました。風神と雷神には、ちがうところがたくさんありました。すごかったです。
 - ・ふうじんらいじんはほとんどいっしょかと思っていたけどちかくで見るとぜんぜんちがうことがわかりました。
 - ・ふうじんは、本当に風がふいてるみたい。らいじんはかみなりがゴロゴロひかっているみたいでおもしろい。こわい。
 - ・風神雷神図を書いた人と夏秋草図を書いた人はちがうのに、絵がつながっているようで、すごいと思いました。
 - ・リアルな絵でした。ほんとうにありそうなこうけいに、花もこまかく書かれていてすごかったです。いろいろ気づけたと思います。
 - ・ふうじんの方は、くさや花が左にむかって、風がふいてるみたい！らいじんの方は花やくさがしたにむいていてかみなりがおちたみたい。
 - ・はっぱの中心にきいろのせんがきれいにしてあり、すごい！！と思いました。花のちくちくがリアルで「すごい！！」「書けるようになりたい！！」と思いました。
 - ・きせつちがいでこんなに変わるんだなと思いました。お花の形がげんじつみたいに見えました。学べてうれしかったです。
 - ・左の絵の方が風がふいてそうでした。
 - ・どうゆうきもちでかいたのかしらりたいです。
- (5年生)**
- ・黒い雲？のにじみかたとか、ひょうじょうとかが面白かったです。白い方は耳が立っていたけど緑の方はちがったのでそこも面白かったです。
 - ・細かいところまでかいていた。だからみればみるほど楽しく見える
 - ・はだが緑だったり白だったりつこの数が一本や二本だったりして同じ人が書いていても全然ちがうと思った。
 - ・顔やはらがふにゃとしているところがおもしろかったです。あと、くもが少しだけ黒からうすくなっているのがすごいと思いました。
 - ・どうして風神雷神ということばになったのかしらりたいです。
 - ・風神や雷神は、どこから現れるか。風神や雷神という人物がいるのか。
 - ・風神の足が変な方向にまがっていたのが気になりました。
 - ・どのように受け取られてきたか。何で、緑色と白色なのか。何で、かべがみが金色なのか。
 - ・きれいな川とあれた花などがある。辺りがけむりのようにうすぐらい。風神と雷神が戦った後の風景なのかもしれない。
 - ・ふうじんらいじんずを見て作者はその人といっしんどうたいになって書いたと思う
 - ・風神が風をおこしたところまで表現されている。花もたくさんかいている。
 - ・表とちがって静かな感じになっておもしろかったです。お花や葉っぱがたくさんあってきれいだったけど最初は下をむいているからびっくりしました。
 - ・夏と秋の特徴を生かした絵がすごく頭にのこりました。また水たまりという表現を思いついて、とてもすごいと思いました。
 - ・夏秋草図では、そこで風神と雷神が何をしたかという事が連そうできました。色々な事から連そうできて、面白かったですし、発見もいっぱいできてよかったです。
 - ・花のつぼみがあってとてもきれいなえでした！水たまりが川みたいで、おもしろかったです。
 - ・草や花だけで、天気？をあらわすのすごいなーと思いました。花が下むいてたりする工夫も私はぜんぜん思いつかないので、すごいと思いました。
 - ・どういう気持ちでかいたのかとか、構図だけでも、時間がかかったのではないかと思います。
- (6年生)**
- ・見てすぐに人外(鬼のような姿)とわかる見た目を書いてあるのがおもしろい(いいな)と思いました。姿の見た目が風神雷神で対になってる(少しだけ)のがいいなと思いました。
 - ・風神の歯がしまいみたいでした。神よりおにに見えました。よく見ると細かくつくっていることがわかりました。
 - ・同じに見えるけどよく見ると目の形や身につけているものもちがって見ていてとても面白かったです。
 - ・雷神はカミナリ雲の上で風神はけむり(風でながれてる)のかなと思いました。
 - ・最初見たときはなんだろうと思ったけど、雷神のたいこや、風神の風を起すところを見てなるほどと思いました。
 - ・立体感があっておもしろかった。
 - ・季節によって表し方が変わるのが少し意外でした。あまり違いがなかったのも不思議だなと思いました。
 - ・風神雷神からよみとったことだけで季節などの工夫がされているところがすごかったです。
 - ・左右でふんいきがちがい、水たまりと風がふいているかんじが良いと思いました。ゆりの花がきれいでした。
 - ・いろいろなきせつにあった花があってみずたまりや風のひょうげんがしっかりできていてすごかったです。
 - ・虫などではなく花であらわしているのがおもしろかったです。
 - ・夏はかみなりがなるからや花の種類で秋はすすきみたいなのがあって、ちゃんとその季節と分かるのすごいなと思いました。



利用者の意見・感想・参加者の反応など

豊富な経験と知識に裏付けられた話の展開や見方・意見の引き出し方が素晴らしく勉強になりました。照明の不空や展開の工夫があり良かった。とても興味深く鑑賞出来ていた。実物大の屏風を見ることができ喜んでおり、おみやげもうれしかったようです。

その他

記録撮影：当該学校での実施記録をYouTubeの文化財活用センターチャンネルで公開済み(5年生)

機関名	中野区立美鳩小学校 (〒165-0034 東京都中野区中野大和町4-26-5)
実施プログラム	①自分だけの松林図屏風をつくってみよう!
日時	2022年7月7日(木)9:40-10:25、10:55-11:40、11:45-12:25
参加対象・人数	116名(6年生3クラス)
実施場所(保管場所)	多目的室・校舎3階・エレベーターあり(空き教室・2階)

利用者の目的・ねらい(図画工作担当教諭)

これまでに茶道など、社会科と図工が連携した授業を行っており、このプログラムを新たな取り組みとしてチャレンジしてみたいと思ったため。本物の作品を用いた鑑賞の授業を行ないたかったから。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールによる打ち合わせ。事前学習はなし、スクリプト案通りに45分で実施。制作した松林図屏風は学校展覧会で展示。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

Q.発見!松林図屏風を見てわかったこと、面白かったことはなんですか?

- ・ふでづかいなどがていねいにつかいられていて、面白かった。
- ・林みたいでうすぐらいさむい感じにみえておもしろかったです。
- ・人によっていつどんなことがあってこういう絵になるというのが違うから、面白かった。色のこさによって見え方が「うすい」と「こい」とはイメージが違ってきて面白かった。
- ・昔の人はすみで絵を書いていたことがすてきだと思いました。またスタンプで絵をつくるということもとっても楽しかったです。
- ・昔、どのようにびょうぶが使われていたかがよく分かった。いろいろな使われ方をされていたことが面白かった。様々な角度から見ると、見えるところと見えないところがあったということがかなり面白かった。松の木がたくさんあることが分かった。すみ1色の白黒でかかれていたことが分かった。
- ・松林が筆一本で面白くて早朝できりがかかってるみたいでおもしろかった。色々なかくどなどをみて松林だとわかった。近くでみると強弱が来ていた。
- ・うすら白い山が見えたり、木一本一本がちがってそれぞれ味がかった。筆づかいがよく見えた。すみの色もちがって手前と奥が分かった。
- ・墨だけで世界が描かれているのに、その絵のテーマが見て分かるように表現されていてスゴイなと思った。人の見方や考え方によって絵の感じがちがっていたのが面白かった。
- ・筆だけで表現すると、「音・時・香り・色・空気」の全てを自由に表現できるのがわかった。これからの授業では色を使いすぎずに3Dを表現してみたい。又、筆1つでも松の葉が針のようでスゴかった!
- ・少ない模様で四季を感じさせ、時間も変わると屏風の見方も変わりとても魅力を感じました。とても面白かったです。
- ・すみだけであそこまで色々な色や形などがかけていてすごいと思いました。

- ・びょうぶの絵は、イメージなどがあり、発想は無敵だと思いました!!昔の人の生活がわかりました。
- ・江戸時代の人の使い方や身近にある、ひな人形のお話を聞き、すごく興味深くなりました。
- ・細かく筆でかかれていた所や、木のうすさなどが工夫されていて、きれいだなと感じました。
- ・近くで見たり、遠くで見たり、見る角度を変えると屏風の見え方も変わってくると分かりました。屏風は見て楽しむのに使っただけじゃなくて部屋をしきるために使ったりするのだとおどろきました。
- ・墨だけで書いているはずなのに、濃淡だけで奥行きやその時の風景などをこんなに表現できるなんて、とびっくりしてしまいました。
- ・すぐおくゆきがあるようにみえた!
- ・色をこくしたりうすくしたりして、きりがかかっていることを表現したり、近かったり遠かったりを表現したりと色の使い方によって表現が変わることが分かった。

- ・説明してくれた方は博物館でどのようなお仕事をされているのを知りたいです。
- ・他にはどのような屏風があるのか。どのようにしてつくっているのか。どのように道具、素材でつくっているのか。他にもどのようにして屏風をつくられたのか、屏風の歴史についても知りたい。
- ・屏風の起源や、いつから絵を楽しむものになったか。屏風の種類はいくつあるか。屏風の絵はだれが書くのか。
- ・こんどは上野のはくぶつかんに行って、本物の屏風や土器を見てみたいです。また、松林図屏風を書いた人の気持ちも知りたいです。
- ・屏風以外の文化財にも知りたい。またそれぞれ見てなぜそう思ったかの自分の思いを知りたい。
- ・びょうぶは、本当にどれくらい風をふせげるのかも知りたいです。
- ・どうやって細かい所をかいているのか。どのような筆を使い、場所によって筆を変えているのか知りたいです。
- ・どうやってあれをかいているのか。自分たちがつくったのはスタンプでつくったけど筆でどうやってどういうふうにつくっているのか知りたいです。
- ・もっと絵のおくぶかさをしりたいです。
- ・作者はどのような思いで描いたのか。松林図屏風の他の作品を見てみたい。屏風に色をつけたものも見てみたい。屏風を実際に使ってみたい。

Q.もっと知りたいことはありますか?

- ・どうやってびょうぶにきれいな絵を書けるか。どうして松の絵を書こうと思ったのか。
- ・ほかの屏風も見たい。
- ・今回見た絵以外の作品もみたいと思った。
- ・びょうぶの他に、絵を見て楽しめる昔の道具があるかを知りたい。
- ・いったい誰がいつどこでかいたのだろうか。また、何のためにかいたのだろうか。びょうぶはいつからある物なのか。びょうぶは日本でできたのか。びょうぶを発案したのはいったい誰なのだろうか。
- ・屏風の使われはじめたじきか使い方の工夫。
- ・昔使っていた違うものをたくさんみてみたいです。実際にみたり今回みたいにつくるのもたのしくてもう一回やりたいと思いました。
- ・博物館の近くには何があるのか。博物館はどのくらいてんじ物があるのか。
- ・上野国立美術館へ行き、屏風や屏風ではない文化財を見て、昔にあったことや今になっても続いていることを知りたいなあと思いました。



利用者の意見・感想・参加者の反応など

講師の方々のお話がわかりやすく、子どもたちにスツと落ちる流れだったと感じ、非常に勉強になりました。特に作品に出合えたことはもとより、作品を鑑賞する際に「自分がどうしてそう思ったのか考えることが大事」という言葉かけが心に響きました。今後もこの授業で学んだことを活かし表現も行っていきたいです。初めて見るびょうぶに興味を抱き、制作も楽しそうでした。非常に貴重な経験で、できれば全学年でお願いしたい!といったくらいです。

機関名	舟形町中央公民館 (〒999-4601 山形県最上郡舟形町舟形126)
実施プログラム	①自分だけの松林図屏風を作ってみよう!
日時	2022年8月7日(日)10:00-11:00
参加対象・人数	18名(事前募集:ファミリーワークショップ こども10名、大人5名)
実施場所(保管場所)	3階ホール・エレベーターあり(同)

利用者の目的・ねらい

コロナで修学旅行等も縮小され、文化財等に触れる機会を失った児童に機会を与えたい。国宝に触れる機会を増やし、子どもへの伝統文化への意識を高める。

参加者のアンケート内容紹介(利用機関による設問、一部抜粋 ※すべて原文のまま)回答率:15/18

Q.松林図屏風づくりを体験してどうでしたか?

たいへんよかった 13名
 よかった 1名
 ふつう 1名

Q.国宝にふれてみての感想はどうですか?

- ・和風できれいだった。
- ・うれしかった。
- ・こんなにすごいと思わなかった。すてきで、きれいだった。
- ・心が豊かになる感覚がありました。写真ではわからない絵画の深み、おもしろいです。
- ・どのきせつにも感じられて、とても自分で作ったのとぜんぜんちがいました。
- ・いがいと思ったよりも重かった。
- ・以外と重みがあった。昔の技術でも細かく作られていると思った。
- ・普段体験できない事を体験できて良かったです。
- ・どのような光で見るといいとかどのきせつ、じかんをかんがえておもしろかった。
- ・ちょっとよく分かんない

Q.その他感想

- ・国宝というと難しいのかなあ〜と思っていたけど正解がないときいて、自由に楽しめそうです。
- ・またやりたいと思った。
- ・はんこでいろいろなところにすたんぷできてたのしかったです。またあるのならまたしたいです。
- ・文化財にふれる機会がなかったので今日参加してみて文化財と取り扱い方や光の色、天気などによってみかたが変わることを初めて知りました。千年先まで文化財を残して欲しいと思いました。
- ・楽しく自分の個性が出せてよかった。大きな作品も作ってみたいです。
- ・むずかしいと思ってたけどやってみたらとてもかんたんで楽しかった。くふうしたところは、なんかいもはんこをおしてこくしたりうすくしたりするところ。またたいけんしたいなと思いました。
- ・山とかが上手にかけて、よかったし、スタンプもきれいに押せて楽しかったけど、すこしむずかしいと思いました。でも、とても楽しかったので、また体験したいと思いました。そして、絵が好きになりました。
- ・びょうぶ作りで色々な所を自分りゅうにできてたのしかった。



利用者の意見・感想・参加者の反応など

屏風は日常の中で馴染みがない家庭が多く、特に子どもにとってイメージがわきづらいという意見があった。反対に参加者から、子どもと一緒にできて良かったや、馴染みがない分大変面白かったなどの意見が多かった。自走の自由な発想と、様々な工夫があり、楽しそうに参加されていた。

機関名	米沢市上杉博物館 (〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1)
実施プログラム	①自分だけの松林図屏風をつくってみよう!
日時	2022年8月27日(土)・28日(日) それぞれ90分
参加対象・人数	ファミリー3組(8名)+高校生以上7名+チルドレンキュレーター4名
実施場所(保管場所)	大会議室・2階・エレベーターあり(同)

利用者の目的・ねらい

2022年7月27日(水)～9月16日(金)の間に実施した企画展「米沢市上杉博物館×綴プロジェクト「日本画をたのしもうー高精細複製が語る名品の世界ー」のワークショップとして実施

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

展覧会への複製品貸出とともに調整。メールでのやりとりのほか、前日に打ち合わせを実施。基本スクリプト案に沿って90分でプログラムを実施。プログラム終了後には、上杉博物館のチルドレンキュレーターの皆さんに、実際に屏風の取り扱いを行ってもらいつつ特別解説を行なった。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のまま)

Q.今日の発見!おもしろかったこと、わかったことはありましたか?

- ・明かりで絵から受ける印象が全く違ったこと。
- ・国宝かあ、ふーん、くらいで通り過ぎるかもしれない屏風について、深く考えたり、感じたりできたよい時間でした。一色なはずなのに、濃淡によっても少し色彩があるように感じます。あたりまえだけどうまいです。
- ・明かりによって見方がちがくて、おもしろかったです。
- ・文化財は、昔の誰かが大切に使っていた物のことを言うということが発見でした。
- ・見えるかくどによって、絵の見えかたがちがう
- ・いろいろなことをしれたこと
- ・家族で松林図屏風をつなげてみれたこと
- ・光、空間の違いによって見えてくるものや、音やにおいで連動して想像がかきたてられました。ガラス越しでは感じられないことですね。空調の音が滝や嵐の音に聞こえ、シェードの重りが柱にあたる音が鹿威しの音に聞こえたのは不思議な感覚でした。
- ・みなさんの絵との向き合い方や感じ方のちがいなどが、私とはちがってとても良かった。たのしい時間でした。

Q.もっと知りたいことはありますか?

- ・屏風も色々あり、時代ごとの美のちがいとか流行りすたりなど。
- ・いろいろなびょうぶや、絵を知りたい。
- ・どんな人が使ったのか、どんな部屋で使ったのかきになりました。
- ・どんなきもちでかいたのか
- ・しょうりんずびょうぶをもっとみたい
- ・できれば、これを作った人がどんな思いでこれを作ったのか知りたいです。

Q.参加してみての感想をお聞かせ下さい

- ・子供の手伝いだけでなく、親もワークショップに参加してみて、大いに楽しめました。感想を話し合えて有意義でした。
- ・とてもたのしく参加できました。平面と立った屏風のときとイメージのちがいさがよくあるとわかりました。ありがとうございました。
- ・自分オリジナルの作品が作れて楽しかった。
- ・作品を見て感じることを話す機会なかったので、新しい発見でした。
- ・文化財の意味を知ることができて、保っていく姿勢を知ることができたのでよかったです。屏風一枚の見方、感じ方がこんなにも沢山あるのだなと感動しました。
- ・とてもすごくおもしろいたいけんをさせてくださりありがとうございました。

- ・たのしくてやりやすかった
- ・楽しかったです
- ・オリジナル作品をつくってたのしかったです。
- ・1つの作品をじっくり見ることでいろいろなことを考えたりできたので、楽しかったです。
- ・びょうぶについてより深く鑑賞できるようになった。
- ・何かを作るのはおもしろい。工作や絵を書くワークショップは楽しく参加できる。
- ・“自分なりの”という制作がとても難しかった。等伯のすばらしさを感じただけに、等伯の作品の一部が描かれている台紙に手を入れることにとっても躊躇した。“自分なりの”で制作する時はやはり1から自分で探さないとい何を描いて良いか迷うなあ…と感じた。
- ・自分の手で、文化財をモデルにした屏風を作るのは初めてだったけど楽しかった。自分なりの意図をもって制作できたのでよかったです。
- ・あまり経験することのできない体験をすることができて良かったです。
- ・展示会を深めるワークショップ、いいですね。これからも多くのワークショップを楽しみたいと思います。
- ・今回はずっと松林図屏風を通してさまざまな気持ちや風景を感じることができました。ありがとうございます。
- ・作品を作る時間がもう少しほしい。
- ・他の作品での体感をしたいと思います。



機関名	世田谷区立砧中学校 (〒157-0066 東京都世田谷区成城1-10-1)
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風
日時	2022年10月 12日(水)13:35-14:25 13日(木)9:45-10:35、10:45-11:35、11:45-12:35、13:35-14:25、14:35-15:25
参加対象・人数	200名(中学校1年生)
実施場所(保管場所)	ランチルーム・3階・エレベーターあり(配膳室)

利用者の目的・ねらい
日本美術の入り口として、またレプリカではあるが本物に触れるがごとくの作品の鑑賞をさせたい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールによる打ち合わせ。事前学習はなし、スクリプト案通りに50分で実施。ただし、13日の最終回のみ夏秋草図屏風から鑑賞を開始。事後に工芸(陶芸)に取り組み、日本の文様からの日本の装飾、しつらえからの水墨画、琳派の順番に学習を行う予定。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

- Q.発見!びょうぶを見て知ったこと、面白いと思ったことを教えてください。
- ・ 風神雷神の周りにあった黒い雲や白い布などが風になびいていて、動いているようにみえて、不思議に思いました。風神雷神の髪を近くでみると、神が1本1本リアルに描かれていて大昔の絵なのにすごいと思いました。
 - ・ 一見、遠くからみると色が違うだけであってほとんど同じように見えたが、よく見たら角の本数が違うなど細かい違いがいくつかあって面白く感じました。
 - ・ 風神と雷神は、とてもイメージが強く「屏風といえば、これだな!」と思っていましたが、今回、初めて目の前でみたら、思った以上に色が濃く、そして明るい絵だったのでびっくりしました。
 - ・ 私はずっとこの絵を神ではなく、昔の感じで描いた人なのだと思っていました。だから「風人雷人」かと思っていました。でもこの絵を「神」だと思ってみると、昔の人は、今の人みたいに神を白や金などと思っていなくて、黒や緑など暗い色のイメージがあったのかと、面白く思いました。
 - ・ 風神の勢いという動きがすごいと思いました。かみがすごく細かくかいていて、他の部分と少し違うなど感じました。風神雷神の表情が笑っているようで少しおこっているようでもあって面白く思いました。
 - ・ 入室した瞬間の空気は今まで1番おもしろかったです。とても迫力があり自分は最初の光の方が好きでしたが明るい方が見やすいです。
 - ・ 作者の思う風の神の風神と雷の神の雷神が向き合っていて見たら空だと思えるように描かれていて面白かった。
 - ・ 金箔、銀箔をはってから絵を描くと、金、銀の絵の具をぬるよりもいっそう絵がはなやかになるから工夫されているなど思った。
 - ・ 夏秋草図の絵と関連しているところ。風がふいている絵の表は風神、夕立の後の絵の表は雷神で、作者も絵もまったくちがうのに2つの絵がつながっている面白く感じた。
 - ・ 昔の人が思っていた風と雷のイメージを、これを見て少し分かった。植物をなぎ倒す風と大粒の雨に対するイメージが出した迫力があって、面白かった。
 - ・ 風神雷神図と描いた人が違うので表と裏で雰囲気全然違って、作者が違うだけでこんなに印象が変わることがびっくりしました。
 - ・ このびょうぶには本当に驚きました。風神雷神図のうらにこんなにきれいな絵が書かれていたことや、初めて見たこともあってなんかびっくり箱のような楽しさがあるとも感じました。
 - ・ 絵の上部に川のようなものが流れていて、その下に草がゆれている所から、自然の美しさを感じました。小さい花などから細かく描かれており、この絵が100年後に描かれたらと思うと、かなりすごい絵だと思いました。
 - ・ 風神の裏は風によって葉がゆれている様子がよく伝わる絵で、何枚かの葉がとばされて風神をイメージさせた。雷神の絵の裏は右上にある青いものは雨の降った後の水たまり、草は水できがたつておもくて下に下がっていて雨上がりイメージしていて、風神雷神と関係があったということもおもしろかったです。
 - ・ 私はこの絵を見た時、その場にいるようだと感じました。葉は風の方向になびいていてまだ温かい少し寒い風がふいているようで感動しました。
 - ・ 左から右へ季節が移り変わっているのだと思うとすごくおもしろいと思いました。
 - ・ 植物の描き方がとても美しく、立体的に見えます。そして川の線が金色で輝いているように見えたのが面白かったです。
 - ・ 筆一本でこんなにも確実に表現されているところが面白く思いました。
 - ・ 雨や雷をそのまま描かずに、草の様子や周りにあるもので表現していて、面白く思いました。2つの絵はつながっているように見えるけど、右と左で季節が違って時の移り変わりが表されているのか考えました。
 - ・ 一つの物を描くときに輪郭を一息で(一筆で)かいているのが手馴れているようで美しいなと思いました。今とちがって筆で文字をかいていた時代であるのであたり前かもしれませんが、硬筆になれた今の時代の私からすると柔らかい筆でこれほどの太さのそろった線かけるのは並々ならないことだなあと感動します。それから作者名の色が左右でちがったり、二人の神のいる方が金を背景にしているのに対しこちらは銀、神々のいる世の絵に対し、恐らく夏秋草図は現世を指すものであったりなど、既存の絵の作者をリスペクトしつつ感性で屏風に加筆した作者の生きていた千年前がなんとなく伝わってくる気がします。
- Q.もっと知りたいことはありますか?
- ・ 風神雷神の髪など細かい部分を大昔はどのような道具で描かれたのか気になりました。
 - ・ 雲のところをどうやったらあんなにきれいなかんじに描けるのか知りたいです。
 - ・ どのような順番で色をぬりどのような物でぬったのか、金箔はどのようにしてはるのか、などが気になります。過去にタイムスリップしてその場でみてみたいです!
 - ・ どうゆう理屈から風神と雷神があんな神様だと推測したのか知りたいです。
 - ・ どうしてたくさん神が存在するのに風神と雷神を書こうと思ったのか?
 - ・ どのようなイメージをもって風神と雷神を描いたのか?
 - ・ 風神雷神図だけではなく、その周りにあった背景や一つ一つの柄に着目してその絵に込められた作者の気持ちを考えたり、知りたかった(くわしく)
 - ・ 先に書かれた表の絵にどんな感じで一体感をだしたかを知りたかったです。
 - ・ 描かれている植物は、この絵が描かれた時代には、季節の象徴だったのかなと気になりました。
 - ・ この夏秋草図は何を伝えたかったのかを知りたいと思いました。



利用者の意見・感想・参加者の反応など(美術担当教諭)

子どもたちは日本間、たたみ、ふすまさえ知りません。先日、急須を知らぬ生徒が半数ほどいたことにショックを受けました。日本のもの…としてのイメージをつくりたかったのですが、生徒皆感動しており、自然光や行燈の光の効果はすごいと思いました。また3年生には、ほぼ何も言わずに光を変えて裏表のストーリーを考えるように促したただけでしたが、よく見ていました。知識より実物です! 折り畳み、持ち運び等、気楽にさせていただいたこと良かったです。

機関名	京都府立福知山高等学校・附属中学校 (〒620-0824 京都府福知山市字土師650)
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図/夏秋草図屏風
日時	2022年10月 26日(水)13:15-14:05、14:15-15:05、特別講座16:00-17:00 27日(木)8:40-9:30、9:40-10:30、10:40-11:30、11:40-12:30
参加対象・人数	310名(中学校1・2・3年生、高校生の希望者)
実施場所(保管場所)	特別教室・3階・エレベーターなし(同)

利用者の目的・ねらい

美術鑑賞に興味関心を持たせる。中学生2年生が進路学習をしているので、文化財を守る仕事についても知ってもらいたい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

メールにて事前打ち合わせ。通常授業内では先生の授業案に沿って行い、必要に応じて解説を挟む形で進行(授業案:①ワークシートを用いて風神・雷神の表情を読み解く、②裏に描かれている作品があること説明、③自分だったらどんな絵を描くか考える、④夏秋草図屏風の鑑賞)。特別授業については置き方を変えたのみでスクリプト案通りに実施。

参加者の感想紹介(一部抜粋 ※すべて原文のまま)

(中1)

今まで絵を見ても、なんかすごいで止まっていて、自分が何をすごいと感じるのか、本当に好きなのか分かりませんでした。でもいろんな質問に対して考えるうちに、自分は屏風のどこが好きなのか、分かりました。とてもいい体験になりました。

(中3)

初めて間近で風神雷神図屏風を見たので、意外とはっきり線が描いてあることを知った。平面的な屏風から、風が吹いているとか、今いるのはどこか、描かれているのは人なのか、想像を膨らませるのが楽しかった。裏面に絵がある屏風も初めてで楽しかった。

(高校1年)

非常に有意義な時間だった。自分一人でこういう絵を見えると考え方、見方は一つに集約されてしまうが、こんなにもいろんな見え方があって、それが人それぞれで違うことを知るなんてそうない。そして裏面に絵があったなんて初めて知った。衝撃だった。人々が行き交う町を予想して裏面を見たが、まさかの植物のみ、川みたいなものがあったが、まさかという感じだった。しかし解説を聞いていると、その一見物静かで感じることも少ないその絵が思考の尽くされた傑作だと分かった。僕

はこの裏の絵は「好き」と断言できる。来年もこの講座を受けたい。

(高校2年)

「風神雷神図屏風」を鑑賞した。中1の時に鑑賞した屏風であったが、その時は「カッコいい」くらいにしか感じていなかった。「風神雷神図屏風」を好きかと聞かれ、最初は好きだと思った。何しろ、すごい屏風だし、迫力を感じていたから。でも近づいて見てみて、顔の表情とか見ると、何故かはわからないが、「あまり好きではない」と思った。こんな意見に達した自分にも驚いた。自分の中に、「すごい作品だから好きにならないといけない」と思っていた部分があったのかもしれない。学芸員さんの質問に沿って考えると、自分の解釈ができていってとても面白かった。そういう質問を自分でできるようになりたいと思った。そうすれば、芸術がもっと楽しめるようになると思った。また、中1の時には好きになれなかった「夏秋草図屏風」が「風神雷神」に見劣りしないほど魅力的だと思えるようになった自分に驚いた。

(先生による補足※彼は中学1年の時に京都から借用した同じ屏風を鑑賞しています)



機関名	東星学園中学校高等学校 (〒204-0024 東京都清瀬市梅園3-14-47)
実施プログラム	①自分だけの松林図屏風をつくってみよう! (中学1~2年生) ③見て、感じて、楽しむ松林図屏風(中学3年生・高校1年生)
日時 参加対象・人数 実施場所(保管場所)	2022年11月8日(火)9:00-9:50、10:00-10:50、11:00-12:50、13:50-15:40 96名(中学校1・2・3年生、高校2年生)9:00-9:50 美術室・1階(美術準備室)

利用者の目的・ねらい

歴史、美術の授業において日本の伝統文化や伝統工芸作品の学習に取り組んでいるので、国宝の複製にじかに触れることによって、作者の意図やその歴史的な背景を感じ、新たな学びを得るため。また、教員の鑑賞授業のスキルアップ、文化財の理解を図る。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールによるやりとり。2プログラムの実施であったが、いずれもスクリプト案通りに実施。ただし高校生については「文化財について」「文化行政の課題」についても伝える。事前学習では作品については触れすぎないように情報を少なめにしたとのこと。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

Q.作品を鑑賞して、分かったことや、面白いと思ったことはなんですか？

- ・光によって見え方が変わるの面白かったし、日光にあたっては森みたいでよかった。細部までかかないことで見る人に考えさせるのが奥深い。
- ・実際に作品を鑑賞して、細かいところまで描かれていてとても見応えがありました。近くで見ることができて面白かったです。
- ・この作品を「春夏秋冬」をそれぞれ感じる人がいて「朝昼晩」それぞれ違った。私は冬の朝だと思った。その理由は、比較的濃く描かれた気を見たからだ。木の写真を見たとき、「朝昼晩」の木が作品にもすべて描かれている気がした。
- ・人によって色々な感じ方や考え方があったのだと改めて実感しました。またこのような国宝が実際に使われていたものだと思うと不思議な気持ちになりました。
- ・今日一番大事だなと思ったことは、作品を「美術品」として見るのではなく、「誰かが使っていた道具」としてみることです。大体美術館でみる作品は近づけば近づく程繊細に見えて、凄いなと思うけど今日初めて見た松林図屏風は近づいた時、自分が思ったよりも線が荒くて悪印象だった。でもがっかりした気持ちはなくて、そういう風な気持ちにさせる作品を面白いと思いました。
- ・水墨の明暗や空間を感じられてすごいなと思いました。光の加減で見方がかわっていくのが面白いなと思いました。
- ・西洋的リアリズムと対極性を見せたこと。
- ・初めて見たけど、空気感というか、日本どくじの美が伝わってきました。
- ・1時間の間に印象が何度も色々な方向に変わることが面白かったです！屏風を使っていた人たちの情景も、絵の中の季節、時間などはじめの印象とはがらりと変わりました。もっと長い時間静かに見ていたいと思いました。
- ・はっきりと描かれている木は近い距離に、うっすらと描かれている木は遠い距離にあるように感じる表現方法だったと思いました。すべてをはっきりと描くのではなく、色や線をうっすら付けたりするだけで、自分の頭の中でその周囲の風景が想像できるのが面白く、作者の表現方法に感心し

- ました。
- ・西洋の作品は空白が少ないイメージがあり、やっぱり日本画は空白が多いと感じた。空白に何があるのだろうと想像が掻き立てられた。
- ・屏風は近くで観れば観るほど奥行きを感じる。絵の中にはどのような光景が広がっているかを考察できる。
- ・すみ、黒だけなのに引き込まれるような表現に驚いた。
- ・同じ作品でも、あかりが違ったりとすごく違って見えるんだなあと思いました。濃淡で奥行きが表せることがすごくわかりました。遠くから見るのと近くで見るとは、かなり違うだなと感じました。
- ・初めて屏風を近くで見たのですが、すごくはっきり見えてきれいでした。
- ・絵画には正解がなく、皆それぞれの解しゃくで良い事が分かった。
- ・筆先や面を使って描かれていて面白く感じました。
- ・きりやもやがかかっているように見えるのがとても良い味を出しているなと思った。

Q.もっと知りたいと思ったこと、興味をもったことなどありますか？

- ・美術館や博物館に展示されている貴重な品々が展示できているのは、その品一つ一つに関わった人達が大変大事に扱ってきたおかげなのだと思いました。
- ・今回の作品だけでなく、また違う他の作品も観てみたいと興味を持ちました。
- ・作品を鑑賞するときに研究された事実を知ることが大切ですが、自分の考えを大切にすることが重要だと感じました。なのでたくさん作品を鑑賞して、自分の考えを持ち、自分の感性を磨いていきたいと思いました。
- ・他にどのような文化財があるのかや、美術博物館についてとても興味をもちました。
- ・今まで何故屏風に絵なんて書くんだったかと思っていましたが、折り目、蛇腹折りになっていることで木の立体感が感じられて屏風の意味がわかった。もっと色々なデザインの屏風をみて使っていた人の性格や好みを想像したいと思った。
- ・美術関連にあまり詳しくないけど、今回話を聞いて

- て作品の鑑賞をしたらプライベートで見た作品よりも違って見えた。今度、美術館に訪れてみたいと思った。屏風のミニチュア大事にします。
- ・お話を、元々は誰かが使っていたものと聞いて確かにそうだった。屏風のすてきな所を知れました。
- ・水墨画が後世の美術史に及ぼした影響。
- ・実際に使われた場所に行くとどんな景色が見えていたのか知りたい。
- ・作品が生まれた経緯。作品に込められた意味、表現。
- ・文化財を身近に感じることができる施設はありますか？
- ・自分と他人との意見が全く違い、その人の境遇が現れているようで他の意見をもっと知りたくなかった。
- ・文化財と聞くと時々大切にされてきたものという印象しかなかったけれど、今日話を聞いて誰かが作って誰かが使っていたものということを知ってただ大切にすることでなく、受け継いで残していくようにするということが大切だと思った。
- ・屏風作りのしかなかった。それぞれの個性がでて楽しかった。
- ・墨の濃淡のつけ方、スタンプの上手な押し方、霧の表現のしかた。
- ・さわってどんなかんじよか知りたい。
- ・びょうぶのことについて形とか色とかもっと見て、勉強したいと思いました。
- ・水墨画に興味を持ちました。美術館に行って、作品をもっと見てみたいと思いました。
- ・どこから描きはじめてのかが興味を持ちました。



利用者の意見・感想・参加者の反応など(美術担当教諭)

画像ではなく本物(レプリカ)を前にしながらの授業は教育効果が高いと実感しました。意欲的に取り組み、楽しんでいただいているように感じています。

機関名	世田谷区玉川中学校 (〒158-0091 東京都世田谷区中町4-21-1)
実施プログラム	④絵で読む平家物語
日時	2022年11月30日(水)8:45-9:35、9:45-10:35、10:45-11:35、11:45-12:35
参加対象・人数	127名(中学校2年生4クラス)
実施場所(保管場所)	多目的ホール・3階・エレベーターあり(同)

利用者の目的・ねらい

日本の文化を学ぶとともに、自国の文化を語るができる人になることを目的としたい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールによるやりとり。スクリプト案通りに実施。事前学習として国語科の授業において平家物語が履修済みとなるように調整。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

Q.平家物語を絵で見て気付いたこと、知ったこと、面白かったことは何ですか？

- ・右から左にいくにつれて物語のようにその場の状況が分かるということ。明かりによって見え方がちがうこと。扇の射抜かれている瞬間と、その射抜いた矢が見えておどろいた。
- ・絵の中に、物語がつまっていて1つ1つの表現にも背景があることを知りました。
- ・実際に授業ででた所や武士と貴族の差などがさがして見たりして楽しかった。
- ・国語や社会の教科書で行っていない内容知ること、学ぶことができいい経験になった。詳しい説明つきで絵の内容、時系列がよく分かった。
- ・平家物語といったら文で読むことだけだったが、屏風をよく見ると敵、味方の位置関係などがよく分かって面白かったです。
- ・光のあてぐあいでみえかたがわかり、人がキレイにうつったり暗くうつたりしていたことや、国語でならう平家物語だけではなく社会でならう歴史もすごく関わっているっておもった。実際にみることで印象にものこってよかったです。屏風の歴史にもふれることができ、もっといろんな屏風をみて2枚しかなかったけど他の2つのできごとについてもまなびたいとおもった。
- ・近くでよく見るとちゃんと人の顔(表情)などが細かくかかれていて、すごいなと思った。躍動感があって見て飽きがなかった。
- ・源義経と弁慶が描かれていたこと。蛍光灯の明かりではなく、太陽光や月を模した照明で見たことで金箔が輝いて見えた。何百年も前の人と同じような体験ができた。
- ・授業で学んだ「扇の的」のワンシーンができて面白かった。今日まで、日本のものなのに外国の博物館にあるのはなぜだろう?と気になっていたもので、理由が知れて良かった。
- ・国語の授業で行った扇の的など自分の知っている事柄を絵としてもう一度学習することができて面白かった。びょうぶは博物館においてあるものでしか見たことなかったけれど、色々明かりの調節で違った見え方をしていてとても面白かった。
- ・最初に絵を見た時に、肌が白い人と赤い人がいて、個の違いでそうなっているのか、と疑問に思ったが、それが知れてよかった。また、一つの絵にいろいろな逸話がはいっていたのは、興味深かった。
- ・平家物語は、扇の的や一の谷の戦いなど、屏風に描かれているものだけではなく、様々なエピソード

- ・ドや勉強があるのだなと知り、とても面白かったし、また、今度は国立博物館に足を運んでガラスケース越しに屏風を見てみたい。
- ・絵画は周りの光によって見え方や印象が変わっていて、良いものだなと思いました。遠くから見たときと、近くから見たときに顔の見え方や煙が全然違って、近くから見たときは緊迫感や迫力があつた。
- ・本物かと思って焦った。レプリカの完成度高すぎ。1人1人名前が分かるほど特徴をとらえているので平面的な絵がより立体的に見えた。1つ1つの絵に物語があり当時の様子や雰囲気を感じさせるのは楽しくあつたという間に時間が過ぎた。
- ・社会科室にも今回見た絵の小さいverがあるのですが、その中にたくさんの状況や場面があることを知り、1枚の絵だが何枚も見ているような気持ちになった。
- ・一つの絵にいくつもの物語が詰められていることを知ってびっくりした。明かりの種類によって見え方が異なっていて面白い。大きなものにきれいな絵で圧倒された。描いた人はすごいなと感心しました。
- ・屏風の絵を見ていると昼や夜、朝の違う時間帯に見てみると、まったく違うように見えるということに驚いた。授業で習った「扇の的」の部分ができて面白かった。また、知らない話も聞けて勉強になりました。

Q.もっと知りたいこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことはありますか？

- ・このような屏風は誰が描いたのか?どうしてその状況がそのまま残されているのだろうか?(当時は写真もないはずなのになぜそんな状況だったと描いた人は分かるのか)
- ・1つ1つの物語のつながりが知りたい。
- ・他にもどんな文化財があるのを知りたい。
- ・平家物語以外の屏風も見てみたい。
- ・なぜ戦いの様々なルールがあるのか。あの戦いはどのくらいの人で戦っていたのかに気がなった。

- ・屏風は国宝になっていたり、重要な物としてのこっている物が多いのはなぜか知りたくなった。(当時はただの道具として使われていたのに…)
- ・その他の文化財や国宝を見てみたいと思った。風をささぎったり、部屋の仕切りのための道具なのになぜあんなに豪華な柄になっているのか疑問に思った。
- ・国語で教えてもらったことや、これから習うことを学べて、そして平家物語だけではなく、絵のこまかいところをみて自分で発見したり、いろんな学びができました。歴史のものはどうあつたか、光のあてぐあいでや色で明度がかわったり、たのしみながらできしらないものへちょうせんしたいとおもいました。
- ・授業で習った所以外にも、どんな場面があるのかももっと知りたかった。
- ・持ってきてくださったレプリカが本物とそっくりで見分けがつかなかったの、レプリカをつくっている人はどんな人が興味を持った。また「平家物語」だけでなく他の絵も見てみたいと思った。
- ・どれくらいの期間で作り上げたのかに気がついた。今より少ない技術で現代に負けにくいぐらいの絵がかかれていて職人の腕は今よりすごいものが昔あったことに興味があつた。
- ・もっと歴史を勉強して楽しみたいなと思った。
- ・平家物語にもっと興味をもてました。
- ・琵琶法師の歌付きでみたくなった。
- ・今日来てくださった学芸員さんの話をきき、学芸員とはどのような仕事なのかに気がついた。また、日本にどのくらい学芸員さんがいるのかを知りたい。
- ・屏風をこんなにじっくり見たのは初めてだったので、もっと世界にはどんな屏風があるのだろうかに気がなりました。屏風にはどんなひみつがかくされているのかに気がついた。



利用者の意見・感想・参加者の反応など(校長先生)

生徒に大変わかりやすい内容となっているように思います。しっかりとした鑑賞態度でありました。東京国立博物館のPR動画があれば、生徒に事前に視聴させられ、さらに意識を高められるかもしれません。2年時に学ぶことにより、3年時にある修学旅行(奈良・京都)での文化・芸術に対する鑑賞態度やマナーにも良い影響があるように思います。

その他

記録撮影: 当該学校での実施記録をYouTubeの文化財活用センターチャンネルで公開済み

機関名	豊島岡女子学園中学校 (〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-25-22)
実施プログラム	④絵で読む平家物語
日時	2023年 1月12日(木)9:30-10:20、10:30-11:20、11:30-12:20 1月13日(金)9:30-10:20、10:30-11:20、11:30-12:20
参加対象・人数	264名(2年生6クラス)
実施場所(保管場所)	試食室・1階(同)

利用者の目的・ねらい

中2の古典で「扇的」「敦盛の最期」を学ぶ。東北宿泊研修で平泉を訪れる。など平家まつわることに関わることに多く触れるため、更に教養を深めさせたい。また現在クロスカリキュラムにも注目しているため、社会科や美術とも共有したい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールによるやりとり。スクリプト案通りに実施、アンケートは授業後に記入。事前に古典の授業の中で『平家物語』を音読し、臨場感あふれる描写であること、語りによって伝わり続けたことなどが理解できるように心がけ、また、歴史とは異なる文学としての趣深さがあることを伝え、芸術にもつながるよう導きつつ、当日のプログラムは明かさずに事前学習をしてくださったとのこと。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

Q. 平家物語を絵で見て気づいたこと、面白かったことは何ですか? また、もっと知りたいこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことはありますか?

- 絵で時の流れや位置を示すのできるのを初めて知った。金箔がたくさん使用されていて、豪華だった。
- 見る高さ、場所、または照明の色によって何が見えるか、どう見えるか等、変化があったところが面白かった。また、屏風の視点が雲の上からだったので、俯瞰できる感じが良かった。平家物語をよく読めば個人を判別することができるほど、細部まで書き込まれていると知り、器用だし丁寧ですごいと思いました。持ってきていただいた屏風は一つの谷のたたかいと屋島のたたかいのものでしたが、他の場面も存在するのでしょうか?
- 一枚の絵の中で時間が流れるというのがとても興味深かったです。屏風という大きな絵だからこそできる表現だと思います。逆に、大きな絵なのにモブの顔や細々とした装飾まで描き込まれていて感動しました。
- 物語の文章では時の流れや感情を文字で表せることができるのに対し、屏風では絵でしか表すことができないのに、物語を表しているすごいと思った。近くで屏風を見てみると、1つ1つ馬や人や船などが細かく描かれていて、誰かもわかるほどいい絵に描かれていて感動した。
- とても精密に描かれ描写も丁寧かつ忠実だった。どれも差別化はされているものの、全体的に人も馬も似ていた。そして、明暗や陰といった描写がなく、イラストのようだった。
- 川や海の流れ、射た後の矢、煙が多めの炎、屋根の細かい模様などどれも細かくて、ぼんやりしていたけれどしっかり描かれていて驚くと同時に「うわあ、すごい」と興奮しました。また、人の顔の近くに名前が書かれていて、授業でやったことのある名前を発見した時は「この人こんな顔なんだ」と感じました。敦盛は思ったより美少年ではなくてがっかりしたり、直実の方も何か違うなと思ったり、扇的の扇を持っている人は結構イメージ通りだなと思ったり、人それぞれに様々な感想を持ちました。右から左に時が流れているとおっしゃっていたので、源平合戦の屏風を集めて並べて一気に見てみたいと感じました。
- 特に面白いなと思ったのは、屏風の右側から左側に向かって時間の流れがあるということです。また、右側が兵庫県で起きた戦い、左側が香川県で起きた戦い、ということは真ん中の海は瀬戸内海である、という地理的な見方もできるのだということに驚き興味を持ちました。

ました。また、絵をかけた人以外から見ても誰がどの登場人物なのか分かるほどの再現力というか平家物語への忠実さが凄かった。

・ 屏風が前向きと後ろ向きどちらにも折れることは初めて知った。金色で雲のところも陸のところもどちらも表現されているのが興味深かった。扇的の一ノ関の戦いに注目して見たけど、どちらも場面が忠実に再現されていてすごかった。

Q. 授業を受けて考えたこと、感じたことはありますか?

- たくさんの人の手で守り、伝えられてきた日本の伝統文化を大切に後世に残していく必要性を痛感した。普段見ることは少ないが、だからこそきれいだった。
- 平家物語と源氏物語は2つで1つみたいな、とても良くない認識を小学生の時してしまっていたので、今回の授業で改めて全く別物なんだと分かりました。座って全望を眺められたので、当時の人と同じようなアングルで見れてとても楽しかったです。
- 複製だとギリギリまで近づいて見られる、というメリットを初めて知りました。レプリカという名前自体安っぽい印象を受けますが、高度な技術を使っているためかほとんど本物のようでおどろきました。
- 武士は逃げてはいけないとか平家物語はほとんどの人が知っている作品だったとか、今と昔で価値観や常識が全く違う中で一枚のびょうぶを通じて同じ景色を見て、同じ物語に触られたということが何だか嬉しかったし、この先何千年先もの未来でも同じことが起こっていたらいいなと思った。絵や美術作品などを見る時はそのもの美しさとか技巧とかそういうものに注目してしまうけど、歴史の重みというものも面白いと感じた。
- 私がこの授業で一番感動したのが、屏風の絵を3種類の光で見たことです。行灯の光、月の光、試食室の光、この3つの光を好きな順に並べると、行灯の光>月の光>試食室に光 という感じでした。行灯の光は色がとてもあたたかくて、光の当たっている明るい部分と当たっていない影の部分のバランスが絶妙で幻想的で、心が洗われて、清らかな気持ちになりました。月の光は、行灯の光と同じく、光と影のバランスが私の好みです。そして、行灯の光が橙系のあたたかい色に対し、月の光は青白い透き通るような光で孤独や寂しさを感じさせるような感じがしました。心が落ち着きました。試食室の光は全てに平等に光が当たっていて幻想的な感じがなくなり、あまり好きではないなと思いました。教科書でやった所にもやっていない所にも

目を閉じて耳を澄ませ、場面を想像すると音が聞こえてきたし、空気も感じました。もっと色々な絵を見たいです!!

- 国Bの授業で習った場面が屏風に描かれていたけれど、授業の時とは異なる見方ができた。やはり絵なので、色使いが大切になってくるけれど今日見た屏風は特に色使いが丁寧で見ていてとてもきれいだった。昔の人々の感性はとても豊かだなと感じた。現代では製作できないような芸術作品もたくさんありそうだなと思った。
- 授業で習ったものを知識として留めておくだけでなく、今回の授業のように本体を見てより詳しく解説を聞くことによってより理解を深めることができたとと思うので、自分でも美術館や博物館に行ったりして、もっといろんなことを知りたいと思いました。また、床に座ったり、照明を当時と近づけたりと、当時の人たちと近い状態で見ることによって、昔の人はこんな感じだったのか〜と思って新鮮な気持ちになりました。
- 価値観が変わることで物語の受け取り方も書かれ方も変わるという関係があり、作品によって時の流れでその価値観が変化したものとしらないものがあるという点が興味深かったです。また私が大きくなったら東京国立博物館でこの屏風を見てどのように感じるか試してみようと思います。一つの道具(文化財)からその当時の人の教養や価値観まで分かってしまうかと思うと、古典作品ってすごい、面白いと思いました。当時のように今の生活でも芸術と、当時における月の光のような自然と共に生きられたら素敵だなと思いました。
- 屏風を見ながら「〇〇はこういう気持ちだったんだろうな」と想像を働かせるのはとても楽しく、このように私たちが今楽しめるのは昔から屏風を守り続けてくれた人達のおかげだと思うと、文化財を守るというのはとても大切なことなのだと感じました。先人の人達が守り続けたものにはとても価値があると思うので、機会があれば、上野まで足を運んでみたいです。



利用者の意見・感想・参加者の反応など

授業で文字から『平家物語』を理解し、それを絵で再度味わうという流れがとても良かったと思います。さらにプログラム後、再び作品を全員で音読しました。古典の世界や歴史に対する興味だけでなく、博物館に行ってみよう、他の屏風も見たいというような幅広い関心につながったことは大変良かったと思います。みなとても感動し、楽しかったようで、更に色々見てみたいという感想が多かったです。

機関名	葛飾区立川端小学校 (〒124-0013 東京都葛飾区東立石1-2-1)
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風
日時	2023年1月19日(木)13:20-14:05、14:10-14:55
参加対象・人数	57名(小学校5年生2クラス)
実施場所(保管場所)	図工室・校舎2階・エレベーターなし(図工準備室・校舎2階)

利用者の目的・ねらい

風神雷神図屏風を鑑賞。何をしているか、どんな気持ちか、何をみているか、何か言っているとしたら、などを作品から想像させたい。その後、図工の授業で、風神・雷神に自分が想像したことを組み合わせ、絵に表す活動を行ないたい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールによるやりとり。スクリプト案通りに実施、アンケートはプログラム中に記入。事前学習は行わず、事後に絵に表す活動を行なったとのこと。

参加者のアンケート内容紹介(先生による設問、一部抜粋 ※すべて原文のママ)

Q.今日、びょうぶを見ながら、発見したことや気付いたこと、想像したことを書きましょう。

(風神雷神図屏風)

- ・戦ってるかんじ。雨がふって暴風がふいて2人が暴れている。音もはげしい。
- ・暗いときで見るとはくりよくがあり、近くで見るとかみの毛がとても細かいです。
- ・1つの色に見えるところが近くで、みるといろんな色が使われているように見えました。
- ・みてみて、わたしはおにに見えました。力強くかんじました。
- ・力強く太っていた。
- ・いろんな角度から見ると色合いがちがったり、鬼にも見えたり、神様にも見えました。
- ・かみのけは、せんを一本づつきれいにかいてあって、目がまんまる
- ・戦っているようすみたいだなと思いました。わたしは最初はらい人がおかけられて、次はましかまえてたと思いました。
- ・目と目が合うようにしたり、戦う風のためにバランスはよくつくってびっくりしました。
- ・らいじんは風でふうじんはかみなりみたいでとても「かっこよかった」です。
- ・とてもはくりよくかあって絵だとは思えないくらいとびだしてきそうでした
- ・力強さやみためがライトの色やみるきりかくどでかなりかわっていたのでよかった。
- ・暗いオーラ見たいなものが暗くてけっこうかっこよかった。明かりが照らしてる感じでよかった。
- ・2人の神様がたたかっている様子を想像しました。雷神はたいこをものすごい音でたたいていて、風神は風をおこしながら走っているところだと思います。どちらもはくりよくがあつてとてもかんどうしました。
- ・よく見ると、風神と雷神のかみの毛が細かく、糸状になっているように思いました。風神には牙がないけど、雷神には牙があった。
- ・雷神と風神は今から大雨をふらせようとしているように思いました。雷神は角を二本生えていて、風神は角を一本はえていることに気づきました。

(夏秋草図屏風)

- ・水滴を描かないで、草や花が雨の後の様子がかかれていました。
- ・雨やかぜがふいてもかれないのがすごいとおもった。
- ・雨でできた水たまりや、きれいな花がとてもよくわかってきに入りました。
- ・とてもうまく雨と風を表していた。花と草がとてもきれいだった。とても考えながらかいたんだらうなと思った。
- ・絵の意味を知るとすごいなあと思いました。
- ・視線の角度で草のたおれぐあいがわかりました。雨がふった後を表しているのでみているとすずしくかんじました。
- ・作者は風神雷神の絵をすごくよく見て夏秋草図をかいたことが伝わってきました。
- ・はっぱやお花がとてもせんさいにかかれていて、本ものの草花みたいでした。かきかたにきょうみがわかりました。
- ・あざやかな色と花で裏に書かれている事の努力とのきづながかかれていいなあと思います。

Q.あなたなら、風神雷神の裏に、何を描いてみたいですか。

- ・暴風がふいていろいろなものが飛ばされていく様子。
- ・富士山の近くの海で津波がおきている様子。
- ・かみなりが村に落ちている様子。
- ・台風のような天気で風の強い雨がふっていてかさをさした人を描く。
- ・風がくそふいているかんじのえ
- ・風をたくさんかいてみたいあとは風がふいても、たおれないような草をかく。
- ・かぜで、せんたく物がとばされるかんじをかきたいと思いました。
- ・すなけむりがまうほどのたつまき
- ・うしろすがたをそうぞうしてかきたいです
- ・あめがふっていてまちがあられているかんじのえ
- ・花や草が風でなびいている様子を描いてみたいです。

- ・風に吹かれている森の木をかいてみたいです。
- ・昔の家にいる身分の高い人構に風神の絵、外の植物、風のえいぎょう。
- ・歩いている女の人の所に風がピューピューなっている所でふんばって歩いている絵。
- ・風でものがとばされているえ
- ・私は風おわれているかんじの町を書きます。
- ・戦争しているじょうきょう。
- ・わたしなら風とくもと雨を描いてみたいです。理由はおもてがたたかっているかんじだったからくもと雨を描いてみたいです。
- ・頭にパラシュートのようなものをもって、いかにもとんでいるような気がしました!!
- ・人がたっていて風で人の服がひらひらゆれているえをかきたいです。
- ・たつまきがおこって、とても風がふいて、たくさんの家をふきとばすところが想像できました。
- ・ケンカのその下でおこっていることがかきたいです。木がたおれ、草や花もバラバラになっていて、いえとかもこわれちゃっているような世界。
- ・風で物がゆれている感じとか風をイメージした感じを描いてみたいです。



利用者の意見・感想・参加者の反応など

授業内容は良かったです。子供たちの発言を促して下さったり、発言に対して問いを返して下さると、更に考えが広がって、違う視点からの発言が増えていったように感じました。多くの児童が興味をもって鑑賞していました。ワークシート(※註:アンケート)にも気づいたこと、想像したことをたくさん書いていて、心が動いていたことが伝わってきました。こんなに近くでじっくり見る経験はとても貴重です。今後、美術館・博物館で鑑賞するときに、きっと思い出して、自分なりの見方をしようという気になると思います。

機関名	田園調布学園中等部 (〒158-8512 東京都世田谷区東玉川2-21-8)
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風
日時	2023年2月9日(木)8:40～9:30、10:40～11:30、13:20～14:10、14:20～15:10、15:20～16:10
参加対象・人数	215名(中学校3年生5クラス)
実施場所(保管場所)	なでしこホール・第2校舎2階・エレベーターあり(同)

利用者の目的・ねらい

借景屏風絵制作を行うので、その事前学習として鑑賞したい

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールによるやりとり。スクリプト案の作品順番を逆転(夏秋草図屏風→風神雷神図屏風)に変更して実施、アンケートはプログラム中に記入。事前学習実施なし。

参加者のアンケート内容紹介(先生によるワークシート制作、一部抜粋 ※すべて原文のママ)

Q.解説を受けて興味を持ったこと、面白かったこと、発見したこと

(風神雷神図屏風)

- 夏秋草図屏風と対になっているのが面白いと思った。銀と対になるように金ばくをはってあって、とことん対にされている感じがした。
- 雷神は身体が白色で帯の色が緑だが、風神は身体が緑色で帯の色が白だ。髪質が同じ。
- 解説を受けて、私はこの絵の風神と雷神のデザインについて興味を持ちました。それぞれ力を使うための道具を持っていたり、顔のデザインが個性的で面白いと思いました。
- 鑑賞してみて、私は風神と雷神はそれぞれ動物をイメージして描かれたのかなと思いました。
- 表側はとても勢いがある感じがするが、うら側はとても静かなふんいきで、正反対なのに統一感がある面白かったです。また、ぱっと見ただけでどちらが雷でどちらが風かすぐにわかり、工夫がされていると感じました。
- 迫力があってもすごい発想が昔の人にはあるなと感じました。2人の神様はこの風の強い上空で何をしているのだろう・・・?という疑問がわき、考えているとたくさん想像できます。戦ってるのかな、それともこの世について語り合っているのかな、それとも踊っているのかな、と想像するのがとても面白いです。
- 風を袋で、雷を太鼓で生み出すと表現するというアイデアが面白かったです。
- お互い下を見て人間たちに向けてやっている様子が現れていると思いました。
- 風神雷神図は見たことがありますが、それとはまた違った書かれ方をしているなと思いました。例えば表情だったり、皮膚のたるみが見えたり。また、布で風を表現していることや、太鼓などそれぞれの抽象的なものが描かれていて、見てすぐに風神雷神図だとわかりました。
- 右と左の絵で体の色が違う(左:白、右:緑)のがとても面白かったです。また、夏秋草図屏風の方と全然違う雰囲気のある絵の方も興味深かったです。そして、こっちの絵が表(おもて)で夏秋草図屏風の方が裏(うら)なことにとっても驚きを感じつつも納得できました。
- 災いを吹きとばしてくれそうな迫力のある絵だなと感じた。腕や足がゴツゴツしていたり、歯がとがっていたり、人間と違う部分の鬼のようなものを連想した。
- 雷神が風神の攻撃に対し、足をふんばって対抗しているように感じられました。また、風神がまるで屏風の右側からとび込んできたような躍動感があるなと思

いました。

(夏秋草図屏風)

- 草が垂れ下がっている感じで季節を表しているところ。直接季節のものを描かないところが素敵だと思った。光によって見方が違うところが面白かった。
- 天の川みたいなものがあった。全体的に草が下側向いていて悲しい気持ちの絵に見えた。
- 解説を受けて、私は作者の技術や考えに興味を持ちました。風神の裏は風がよく吹く時期の花などの植物、雷神の裏は雷が多い時期の植物を描いていて、色々な事が考えられているのだと感じました。また、植物が吹かれていたり、雨上がりでしなっている感じも表現していて感動しました。
- 右側の屏風と左側の屏風で季節が違うということに気がつき、屏風に描かれているもの一つ一つに意味があるということに関心を持った。また、実際に近くでよく見ないと気がつかないことも多かったので、おもしろいなと思いました。
- 上の青いものが川だと思っていれば水たまりで、夏をよく表していると思いました。花の色が彩やかで、葉のしおれ方も本物そっくりでとても素敵と思いました。
- 草が左右で向いている向きがちがう。秋と夏で工夫されている。川だと思ったけど水たまりだった。秋のほうは草が強いところ。夏のほうが草がたれているのは水できの重さで下をむいてしまうから。
- 私はまずこの作品を見て、川と川岸にある植物だと思いました。左側の作品ではすずきや紅した葉があったり、右側の作品ではユリや昼顔だったり四季折々の植物がよく見ると書かれてあって面白いなと思いました。解説を聞いて天候を表しているのを知ってからは見方が変わり、雨や風を想像することができました。
- この作品を作るのに、色々考えられてすごかったです。後ろの風神雷神に対応しているの聞いてなるほどと思いました。後から描いた人はすごくきんちょうしたろうなと思いました。
- 明るさなどによって絵の見え方が全然違うのが面白かったです。また、右と左の絵で季節が違うというのも作者の意図がとても気になるポイントでした。そして、絵を近くで見ることによって葉脈などの細かい部分も見えて、この絵への興味がさらに深まりました。
- 葉の上に水滴を描かなくても雨の降った後だと分かるように表現できるのがすごいなと思いました。初めて見たときは元気の無い植物達だと思ったのですが、解説を聞いて雨が降った後だと知ると、右上に水が流れていたり葉が萎れている理由が合致してより趣深く感じる事が出来ました。

- 有名な画家の裏面に絵を描くということは99.9%自分の絵が有名な画家(尾形光琳)の絵と比べられてしまうので、下手したら職がなくなってしまう。なので、酒井抱一はある程度自分に自信があったのだなと思いました。また、風神雷神図屏風に合うよう風神の裏は風が吹く秋をイメージし、雷神の裏は雨が降る夏をイメージしているところがすごく考えていてすごいなと思いました。
- 描かれている花で、しっかりとさいている花もあればこれから咲く花もあった。
- 解説を受ける前に季節感を想像したときに雨上がりの湿気多い夏を連想しました。離れて見ていた時はもみじの葉がてんとう虫に見えていたが、近づいたら秋を感じるような絵だった。右側は雨上がりの夏を連想したのは、草がつゆを表現していて、雨上がりを感じたことを聞いて、驚いた。有名な人の絵の裏に適している、面白味のある絵だなと思った。
- 描かれている花などの種類から、夏と秋を読みとれるのがすごかった。言葉を使わなくても伝わるから今の時代まで受け継がれてきたんだなと思った。
- 葉脈の構造が想像していたよりも細かく鋭く描かれていて、物の形がはっきり分かるような印象を受けた。色の区別のされ方もはっきりと分離されているようでどちらかという実際に描いたものというよりは作り物を感じた。
- あえて背景、草花の雰囲気や似せることで、1つの絵にも見え夏から秋へと季節が移り返っているのを表現しているのではないかなと思った。人や動物はおらず、静かな雰囲気が感じられるなと思った。このことから夜や、早朝などの、人間のいない自然の姿を写しているのかなと感じた。青い模様(右上)が裏の雷神が乗っている雲につながっているというふうにもとれるなと思った。



利用者の意見・感想・参加者の反応など

風神雷神図を見る時間も長く取れると良いと思いました。反応はとても良く、興味を持って見ていました。また、高学年の生徒にも見せたいと思いました。文化財としての講義もしていただけると修学旅行とも関連付けができてよいと思っています。

機関名	つばさ大森教室 (〒143-0015 東京都大田区大森西一丁目13番2号)	
実施プログラム	①自分だけの松林図屏風をつくってみよう! 改変	
日時 参加対象・人数 実施場所(保管場所)	2022年7月13日(水)13:00-14:30 5名(小学校4年生~中学校3年生:当日に通室した児童・生徒) 多目的室・建物3階・エレベーターなし(同)	
利用者の目的・ねらい	実施までの流れ・内容・事前事後学習等	
子どもたちの多様な体験と将来の職業を考えるため	講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかFAXによるやりとりを実施。アンケートも利用者と相談の上、書きやすい様式に変更。基本スクリプト案での実施を基本としたが、当日現場で参加者に合わせた方法に変更。事前・事後学習なし。	

参加者のアンケート内容(回答率4/5)

Q.参加してよかったですか?(はい4名)

- ・じぶんにとっていいたいけんになった
- ・屏風を使っていた時代の生活についてよく知れました。(間仕切りとして使われていた事が意外でした!)
- ・作るのが楽しかった
- ・今日までこのようなたいけんをしたことがなかったからです。そして今日感じたことは、スタンプをおすだけでもいろいろな工夫が思いついたりするので考えるってすごいんだなと感じました。

Q.松林図屏風を見てわかったこと、面白かったことはありましたか?(はい4名)

- ・びょうぶのみかたはひとそれぞれでそのときのてんきやきぶんなどでみかたがかわる
- ・屏風などの芸術作品は見た時間帯や天気、精神状態を写す鏡のような役割もあるのかもしれないと思いました。
- ・見る人によって感じ方がちがう所。
- ・時間やきせつなど1つの屏風でいろいろなことが思いつくので面白く感じました。

Q.もっと知りたいことはありましたか?(はい2名、なかった1名、わからない1名)

- ・屏風はどう出来たかなどの起源や、他の昔の芸術作品について知りたかったです。
- ・どのような理由でぶんかざいになったのかを知りたいと思いました。



利用者の意見・感想など(教室担当教諭)

本教室では評価という観点が無いので良かったと思う。学校の授業では評価をするために定着したい、育てたい、伸ばしたい観点を明確にして授業担当者との打ち合わせが必要となると思う。とても好評で楽しかったという生徒が多い。少数の生徒にも関わらず、運搬・講師派遣などにおいて、通常の学校と同様に行っていた。

機関名	つばさ蒲田教室 (〒144-0056 東京都大田区西六郷一丁目4番2号)	
実施プログラム	①自分だけの松林図屏風をつくってみよう! 改変	
日時 参加対象・人数 実施場所(保管場所)	2022年10月6日(木)13:00-15:00 6名(小学校4年生~中学校3年生:当日に通室した児童・生徒) 通常教室・1階(同)	
利用者の目的・ねらい	実施までの流れ・内容・事前事後学習等	
子どもたちの多様な体験と将来の職業を考えるため	講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかFAXによるやりとりを実施。アンケートも利用者と相談の上、初回に実施したつばさ大森教室と同じ様式に変更。基本スクリプト案での実施を基本としたが、当日現場で参加者に合わせた方法に変更。事前・事後学習なし。	

参加者のアンケート内容(回答率6/6)

Q.参加してよかったですか?(よかった4名、ぶつう1名、よくわからない1名)

- ・楽しくできた
- ・松林図屏風のことがくわしくしれてうれしかった。
- ・初めて実物大のびょうぶを見れたから。
- ・絵が書いてよかったです。
- ・最初から最後まで、興味が無いままでしたが、自分が体験してみて絵というものはとてもバランスの良い物なのだなと感じました。
- ・人によって、かんじかたがちがう。

Q.松林図屏風を見てわかったこと、面白かったことはありましたか?(あった3名、わからない3名)

- ・屏風が今のカーテンのようなやくわりをしていたことがきょうみぶかかったです。
- ・木などの位置、角度、どんな状態なのかが分かるのがすごいと思いました。

Q.もっと知りたいことはありましたか?(あった1名、なかった3名、わからない2名)

- ・作者はどんなひとだったか



利用者の意見・感想など(教室担当教諭)

事前に説明いただき、また当日の解説がていねいで子どもにもわかりやすかったと思う。生徒の反応も良かったと思う。

機関名	つばさ池上教室 (〒146-0082 東京都大田区池上三丁目27番6号)	
実施プログラム	①自分だけの松林図屏風をつくってみよう! 改変	
日時 参加対象・人数 実施場所(保管場所)	2022年11月16日(水)10:30-12:00 11名(小学校4年生~中学校3年生:当日に通室した児童・生徒) 卓球室・1階(同)	
利用者の目的・ねらい	実施までの流れ・内容・事前事後学習等	
子どもたちの多様な体験と将来の職業を考えるため。日本の伝統文化を理解し、それを継承する心を育てるため。不登校の生徒が体験学習を通し、自己有用感を高めるため。	講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかFAXによるやりとりを実施。アンケートも利用者とは相談の上、初回に実施したつばさ大森教室と同じ様式に変更。基本スクリプト案での実施を基本としたが、当日現場で参加者に合わせた方法に変更。事前・事後学習なし。ただし、参加する児童・生徒の発達段階やそれぞれの状況が異なるため、以下に児童・生徒が興味深く取り組めるか、言葉かけやフォローの方法を検討した。	
参加者のアンケート内容(回答率11/11)		
Q.参加してよかったですか?(よかった9名、ふつう2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく教えてもらったから。 ・感性がしげきされました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・光によって見え方が違うこと ・いろいろなかき方をしておもしろかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・やってみたらむずかしかった ・聞いて楽しかったし、新しいことを知れてよかったです。 ・スタンプ押すのが楽しかった ・たのしかった ・人によって見えかたがかわっておもしろかった。 ・5時間かかる ・つくって、スタンプとふでペンでつくってたのしかった。 ・きれいにかけたよかったです。 ・他の人の意見が聞けたこと(屏風に対して)、スタンプなどキットが充実していたこと 	Q.松林図屏風を見てわかったこと、面白かったことはありましたか?(あった8名、なかった2名、わからない1名)	Q.もっと知りたいことはありましたか?(あった3名、なかった4名、わからない4名)
	<ul style="list-style-type: none"> ・きせつなどが自由に感じとれた ・じょうけいがうかんできて、面白かったです。 ・人によって見え方がちがうのが面白かった。 ・木は簡単そうだったけどむずかしい ・この木はなんのしゅるいかな?ってかんがえて、たのしかったです。 ・きれいだっ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなかんじでつくったか知りたい! ・もっとうまくするにはどうしたらいいのか。うす〜くかくやり方。
利用者の意見・感想など(教室担当教諭)		
<p>中学校の美術や社会科の教科に取り入れると、とても深みが増すと同時に、総合的な学習の時間にも「日本の伝統文化を知ろう」というタイトルで取り入れられると思います。表現が下手な子もいますが、「良かった」「楽しかった」の感想が多かったです。参加できなかった中学生が残念がっていました。とても素晴らしい内容で本当にありがたく存じました。他の作品でもこのような機会があればうれしいです。日本人としての視野を広げ、誇りを育てる(もてる)場の設定でした。</p>		



機関名	つばさ羽田教室 (〒144-0056 東京都大田区大田区羽田四丁目11番1号)	
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図/夏秋草図屏風 改変	
日時 参加対象・人数 実施場所(保管場所)	2022年12月8日(木)11:00-11:50 9名(小学校4年生~中学校3年生:当日に通室した児童・生徒) 通常教室・2階・エレベーターあり(同)	
利用者の目的・ねらい	実施までの流れ・内容・事前事後学習等	
子どもたちの多様な体験と将来の職業を考えるため	講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかFAXによるやりとりを実施。アンケートも利用者とは相談の上、初回に実施したつばさ大森教室と同じ様式で風神雷神/夏秋草図屏風版に変更。基本スクリプト案での実施を基本としたが、当日現場で参加者に合わせた方法に変更。事前・事後学習なし。	
参加者のアンケート内容(回答率8/9)		
Q.参加してよかったですか? (よかった5名、ふつう1名、よくわからない2名)	Q.屏風を見てわかったこと、面白かったことはありましたか?(あった5名、わからない3名)	Q.もっと知りたいことはありましたか? (あった2名、なかった3名、わからない3名)
<ul style="list-style-type: none"> ・レプリカでもはく力がすごかったです。風神と雷神がとくにすごかったです。 ・見る時間が多くじっくり屏風を見れたので良かった。 ・最しよの方にいなかったから。 ・考え方がいっぱいあっておもしろかった。 ・あまり分からなかったです。 ・近くで風神雷神をみれてよかったです。きれいな屏風だった。 ・ふだんみれないのを見て勉強にもなったし、色がそのままときいて、ほんものを見たかんかくでした! 	<ul style="list-style-type: none"> ・風神が無セキツイ動物、雷神がセキツイ動物の様にも見えました。食べ物あらそいしているようにも見えました。 ・表と裏でデザインがリンクされているのを知って面白いと思った。右側にあった絵が雨が降っているのを知りおどろいた。 ・おもてとうらでつながりがあるのがおもしろかった。 ・色がとてもきれいだった。風神雷神はよくみてるとうちがうところがたくさんあっておもしろかった。 ・みんなの色々な意見をきいて、それに見えたりしたのがふしぎでおもしろかったです! 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくせいをどうやったのかわかりたいです。 ・どんないろをつかってかいたか知りたいとおもった。 ・雪しゅうの水ぼくがも見たいです。 ・はくせい ・色々な美しい絵を見たいと思いました。
利用者の意見・感想など(教室担当教諭)		
<p>実物大が見れて、生徒には想像力をさらにかきたてる機会になった。</p>		

機関名	中野区立第二中学校 (〒164-0012 東京都中野区本町2-25-1)
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風 改変
日時	2022年9月8日(木)9:45-10:35
参加対象・人数	14名(中学校1年生～3年生 3学年合同)
実施場所(保管場所)	特別支援学級教室・2階・エレベーターなし(同)

利用者の目的・ねらい

日本文化体験(日本美術鑑賞・模写)・修学旅行事前学習(寺社仏閣の拝観の仕方・襖絵・屏風の鑑賞の仕方など)の学習に活用したい。特別支援級の子供達にとってクラシカルな日本美術はとてもなじみの薄いものだが、アニメ等の影響で時代ものに対する関心が高まり「よくわからないもの」から「カッコいいかも!」と子供たちの印象が変化しているように感じており、この機会を逃さず日本美術への興味関心へとつなげたい。本物に近い教材を真近で見ながら鑑賞ポイントなどを示すことで、感性を刺激し、今後校外学習で美術館に行く際や修学旅行先での日本美術に対する興味関心や自分の美術表現の幅を広げていきたい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

当初、2021年4月に実施予定であったが、2度の延期調整を行った。講師往訪による事前打ち合わせと授業見学を経て、FAXのやりとりで詳細を調整。プログラムは着地点を定めずに、参加した生徒の意見をじっくり聞いてお話し、じっくり見てみる方法で実施。事前学習は実施せず、鑑賞後に続けて2時間使用して、担任の先生方で制作(裏白のワークシート、シールタイプ、ぬりえ)の授業を実施。初めて来る外部講師に対して緊張の様子が見られたため、制作の見学は行わなかった。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

Q.はっけん!びょうぶを見てわかったこと、おもしろかったことをおしえてください。

- ・こわかった
- ・らいじんとたいこがにあっていてかっこよかった。
- ・らいじんのかおがこわいと思った。
- ・まゆげか黒かったです。さいしょ見ところクラかった。
- ・かみなり神様の太鼓のところがよくかったです。雷神がもっているバチが好き。風神のぬのを持っているのが好きです。
- ・あつまれどうぶつの森にある!と思いました。風神と雷神はかっこよくていいな—と思いました。
- ・暗明なしの方が好き。イナズマイレブンの円堂守の必殺技「風神、雷神」に見えた。
- ・うでのきんにくがすごいと思った。
- ・びょうぶを見てわかったことは「風神」は暗い所で見て、顔のまゆげが強く感じました。
- ・くらくてこわかった。らいじんのまわりポンデリング見たい。
- ・風神がすてきです。きょうはほんとのしかなかったです。
- ・ススキがすごいまがってるなと思った。
- ・水たまの川だった。
- ・葉っぱのところがきれいでした。スズムシ。
- ・きれいだな—と思いました。
- ・100年ごとは言えないくらいに絵がマッチしていた。雨が流れているところが三途の川に見えた。
- ・花がきれいだった。
- ・夏は草と花がまじってきれいだったし、秋は風神でした。

Q.もっと知りたいことはありましたか?

- ・黒雲の書き方のところが知りたいです。
- ・つのが2本、1本なのか知りたい。かたにまいてる布はどうやってつけているのか知りたいです。うでと足につけているリングはどうしてつけているのか知りたいです。
- ・なぜ太鼓はういているのか(重力で落ちてくると思う)
- ・ラッピングでんしゃにありそう。ふうじんはどうかいどうせんにラッピングしてほしい。らいじんはしんかんせんにラッピングしてほしい。
- ・秋のがらがすごかった
- ・夏のあさがおがきれいでした。
- ・花の種類が知りたいです。水たまの書き方を知りたいです。
- ・冬や春の草図はあるのか?



利用者の意見・感想など(支援級担任)

いつも体験学習をするときは事前に何をやるか、何をみるのか等しっかり学習してから行うのですが、今回はじめて事前学習なしで実施しました。鑑賞の体験中は初めての体験にドキドキ緊張して反応が今一つだったのですが、事後学習がいつもの2倍くらい熱心に取り組んでいました。心が動く体験ができたようです。また、事後学習の教材が本当にスバラシイです。屏風の前にかじりつきで細部を見ながらシールを探して貼っていました。よく見てほしいこちらのねらいが達成できました。障害の特性上、興味関心の幅が狭すぎる傾向があるところを少し広げることができました。事後学習のシールを貼るために屏風をよく見ながら「スズムシがいるかも…」「セミも?」などなど、プログラム中に間に合わなかった感想がたくさん出てきて、自宅でもお土産の屏風を話題にしていたそうです。表と裏の関係性を理解できた生徒も何人かいて嬉しそうでした。美術の鑑賞方法に正解はなく、自由な見方をしてもよいことや、細部までよく見てみようという興味関心をむけてみる体験をさせることができました。

機関名	世田谷区立砧中学校 (〒157-0066 東京都世田谷区成城1-10-1)
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風 改変
日時	10月12日(水)9:45-10:35、10:45-11:35、11:45-12:35
参加対象・人数	30名(中学校1年生～3年生)
実施場所(保管場所)	ランチルーム・3階・エレベーターあり(配膳室)

利用者の目的・ねらい

日本美術の入り口として、またレプリカではあるが本物に触れるがごとく作品の鑑賞をさせたい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメールによる打ち合わせ。事前・事後学習はなし、解説を15分で行い、シールタイプのワークシートを使用して制作を実施。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のまま)

Q.はっけん!びょうぶを見てわかったこと、おもしろかったことをおしえてください。

- ・ 神様に見えてとてもきれいでした。
- ・ つよかった。おおきかった。
- ・ うらおもてによってきせつがちがいがあり、すごく楽しかったです。
- ・ この人がかみなりをならしてるとかと思った。
- ・ ようかいっぽく見えた。
- ・ 雷神はシーサーみたいなかおで風神はりゅうみたいなかおをしていた。
- ・ おにみたいだった。たいこがいんしょうてきだった。かみさまにみえなかった。
- ・ 風神は白い布を持ってた。雷神は周りにたいこがあった。そして手にはばちも持っていた。光を消すと全く違う見えた。
- ・ なんかつかっているみたいだった。こういう絵をかける事がすごいと思った。
- ・ きせつがすごくこまかくかいてあったので楽しかったです。
- ・ きせつをあらはしたりしたがどうなっているかをひょうけんしてこまかくかいているのがわかりました。
- ・ 夏と秋の草とお花のえがあった。ハッピーのえじゃなかった。くらいイメージだった。
- ・ 夏の図は雨があがった後の植物がカーブしてた。水たまりもあった。葉っぱも飛んでいった。

Q.もっと知りたいことはありましたか?

- ・ なぜこのえをかいたのかがしりたい
- ・ 花や草はシンプルな絵だからこそ目につきやすいなて思いました。花がとてもキレイでした。

- ・ どうして、風神と雷神っていう名前にしたのかを知りたいです。
- ・ なんでじみなのかしりたい。どうやって色をつけているのかな



特別支援学級・特別支援学校用のツールについて

ぶんかつアウトリーチプログラムは特別支援級、特別支援学校(養護学校)、病院における院内学級および芸術鑑賞会などの院内イベントでも実施することを想定しています。利用目的と参加者に合わせて内容を組み立て、作品選定・実施時間や場所などについて担当者との相談の上で実施します。今までの実績は、本報告書に記載した通り、ツールを3種類用意した「風神雷神図/夏秋草図屏風」を使用したプログラムです。鑑賞の授業は言葉で表わし、共有することが求められていますが、言葉にすることが難しい場合や得意でない場合であっても、複製品を見て何も感じていないわけではないため、自身が感じたことのアウトプットの手法をいくつか用意しました。利用者には、参加者の普段の様子から難易度に合わせて選んでもらっており、ツールは複数選択可としています。

- ツール① 屏風の裏側に自由に描きこめるミニ屏風**
風神雷神図屏風(表)の裏面を白地にしています。表から想像した裏側の絵を描く/表と同じように絵を描いてみる(模写してみる)/自分が思う風神雷神を描くなど。
- ツール② 夏秋草図シールセット**
夏秋草図屏風(裏)の作者・酒井抱一になったつもりで、風神雷神図ワークシートの裏側(銀地)に夏や秋の草花の再剥離可能なシールを配置。
- ツール③ むりえ**
風神雷神図(表)・夏秋草図(裏)をいずれもむりえにしたワークシート。12色色鉛筆を使用。

機関名	筑波大学附属大塚特別支援学校 (〒112-0003 東京都文京区春日1-5-5)
実施プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風 改変
日時	2023年2月24日(金)10:00-12:00
参加対象・人数	17名(中学校1年生～3年生)
実施場所(保管場所)	体育館・校舎3階・エレベーターあり(空き教室・校舎1階)

利用者の目的・ねらい

特別支援学校学習指導要領に基づいて「社会」の学習しており、小学校段階で小学校4年生～6年生の内容を取り扱っているが、まだ、知的障害のある子どもたちへの社会科の指導方法や内容について試行しながら、検討している段階。地理系の内容は、地域に様々な施設があり充実しているものの、歴史系は子ども達にとって現実感が薄く教材の工夫が必要な状況であり、現代の世界とはかけ離れているため、生徒の理解にも時間がかかる現状がある。また、生徒の実態や発達年齢上、座学での学習だけではなかなか知識や技能に結び付かず、体験学習を入れていながら授業を展開することが非常に有効と考えている。

3年生は、9月末に京都・奈良への修学旅行を予定していて、それに向けて学習を進めることも踏まえ、1・2年生は日本の歴史や芸術に触れる機会としてとても良いプログラムのため実施したい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

講師往訪による事前打ち合わせ1回、ほかメール・FAXによる調整。事前・事後学習はなし、参加者の様子を見つつ、鑑賞を15～20分で行う。シールタイプ・裏白タイプ・ぬりえの3種類ワークシートを使用して制作を実施。どのワークシートを使用するかは、事前に先生方でグループ分けを行う。アンケートについては、罫線入り・表面に作品の写真を入れて気になったところに○付けができる様式・文字は教員がサポートしながら書き添える。時間の指示は白時計で長い針の位置を示すなどで準備の上、実施した。

参加者の感想紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

(風神雷神図屏風)

- ・ふうじんらいじんのえはこわかったけどたのしかったです
- ・風神雷神の絵がすごかった。風神雷神と夏秋草のふくせんがすごすぎ(まじ天才だ)。時間によって屏風の見かたがちがう。※思った事 風神って風雨の神様といっしょかな。
- ・らいじんをかきました。うでとあしをがんばりました。たのしかったです。またかきたいです。
- ・らいじんがすきです。あお、みどり、むらさき、あか、くろ、みどり、きいろ、びんく
- ・私は、風神の色ぬりをしました。よくみて頑張りました。またやりたいです。
- ・ぬり絵が上手にぬれて楽しかったです。
- ・とてもペンきょうになりました。
- ・ぬりえがおもしろかった。
- ・今日は、ぬりえはできて楽しかったです。
- ・えをみてかくのがむずかしかったけど、できてよかったです。
- ・今日は、風神雷神図屏風をかきました。雷様と風をかきました。たのしかったです。
- ・かぜを見ました。かみなりをおて本を見ました。えをかきました。うれしかったです。
- ・らいじんさんがかっこいいです

(夏秋草図屏風)

- ・なつあきくさはおはながきれいでした
- ・すてきな絵だなと思いました。右が夏で左が秋がわかった事。あの風神雷神とつながっている!?
- ・※思った事 左がちょっとさみしい気がする。
- ・夏と秋が綺麗だと思いました。
- ・いろんなきせつがあったりしました。夏は右にいたり秋は左になってますね。とてもペンきょうになりました。
- ・シールがたのしかったです
- ・しーるがたのしかったです
- ・シールがたのしかったです
- ・あきのえがすきです。

- ・秋のえがすきです。はっぱはすてきです。
- ・シールをはったのしかったです。またシールのやつはやりたいです。
- ・今日は、夏秋草図屏風をかきました。夏と秋のえをかきました。たのしかったです。はながすきです。夏がすきです。りゅうは、くさがあってよかったです。
- ・はっぱとハートとくもをかきました。シールをはりませんでした。えをかきました。たのしかったです。
- ・なつのえがすきです。しーるのりはあきのはっぱがじょうずにできました。



利用者の意見・感想など(支援級担任)

生徒たちにとってもわかりやすく、取り組みやすい内容でした。シールなどの対応もよく、またやりたいとの声が多かったです。活動の流れが分かりやすく、落ち着いて参加することができたので良かったです。

機関名	青森県総合学校教育センター（〒030-0123 青森県青森市大字大矢沢野田80-2）
実施プログラム	①自分だけの松林図屏風をつくってみよう！ ②見て、感じて、楽しむ松林図屏風 上村松園筆「焰」を使用した鑑賞の授業デモンストレーション
日時 参加対象・人数 実施場所（保管場所）	2022年8月18日（木）～19日（金）13:00～16:30 25名（研修参加教員）+5名（秀明大学学生・教員）+9名（青森県立美術館教育普及担当・鑑賞サポーター） 産業教育研修室：3階・玄関ホール：1階・エレベーターあり（同）

利用者の目的・ねらい

図画工作科、美術科での鑑賞指導について、苦手意識をもっている教員が多いことから、ぶんかつアウトリーチプログラムを活用し、授業実践や授業改善につなげることを目指したい。

実施までの流れ・内容・事前事後学習等

メールによるやりとり、打ち合わせを実施。研修では、初めに玄関ホールにて「焰」を鑑賞、どのような問いかけをすればよいのか、鑑賞を行なう場所をどのように設定するのかについて、教員のみなさんに参加者として体験してもらいました。その後、産業教育研修室にて「ぶんかつアウトリーチプログラム」の目的と概要を説明した後に、松林図屏風のプログラムを実施。所属する機関でどのように鑑賞の授業を行うか、どのようにアレンジすればよいか、鑑賞して感じたことのアウトプットの方法論をどうするか、作品選定の方法についてなど意見交換を行ないました。なお、事前に参加者へアンケート調査を実施していただき、本プログラム実施の前に学習指導要領の内容を押さえた研修を教育センターで実施、プログラムにつなげるためのグループワークや対話を円滑に進めるための人間関係作りを行ってくださっていました。

参加者のアンケート内容紹介（一部抜粋 ※すべて原文のまま）

- ・ 講師の先生がファシリテーターとなった演習に取り組むことができたので、授業や声かけのイメージをもつことができました。また、屏風を作成する演習では、図工が苦手な自分でもとても楽しむことができたので、授業を組み立てる上で参考になりました。
- ・ 貴重な機会をありがとうございました。自分が感じたことを相手に話すことで、どのように感じたか学ぶことができることを体験し、また、指導者として、復唱しながら相手に問うファシリテーションの方法についても学ぶことができて充実した時間になりました。
- ・ 鑑賞する際に、自分の好きな絵など、何をきっかけとしても構わないということが分かり、鑑賞指導に対する抵抗があまりなくなりました。みんなの意見を聞いて、それを楽しんでもいいということが分かりました。
- ・ 言葉で気持ちを表現するのが難しい子どもたちにも有効な活動をたくさん知ることができたので、実践に生かしたいと思います。
- ・ 実際に今回体験したプログラムを利用してみたいとも思いましたし、二学期からの授業にも活かせるような内容でした。授業者としての生徒への声かけなどの幅も広がりました。貴重な体験ができたと思います。
- ・ 作品そのもの以外にも、作品の目的（調度品なのか、美術品なのか）や、当時の明かり（自然光やろうそくなど）に着目することなど、作品への様々な視点でのアプローチを知ることができ、言葉を慎重に選び、次につなげることの大切さを感じました。特に「正解がないものを教えることを怖がらない」「一緒に見て楽しむ」という言葉が、鑑賞の授業を苦手とする自分には印象に残り、大変有意義な演習となりました。



利用者の意見・感想など（指導主事）

いずれの作品でも対話型鑑賞を体験でき、教員のファシリテーターとしての技術向上につながる学びがあったり、教員研修のねらいを達成できた。また、スタンプで松林図屏風を制作する活動も大変楽しく、鑑賞の資質・能力を育成するひとつの方法として参考になった。学校の生徒に実態に合わせて活用できそうだと感じている先生方が多かった。文化財を鑑賞できる貴重な体験ができ、また鑑賞教育を実践するための教師側の学びも多いため、またぜひ活用したいと思います。

〈その他：撮影のために実施〉

機関名	三重県立四日市高等学校（〒510-8510 三重県四日市市富田4-1-43）
実施プログラム	②見て、感じて、楽しむ松林図屏風
日時 参加対象・人数 実施場所（保管場所）	2023年3月2日（木）10:50-11:40 21名（1年生特別授業） 美術館・校舎1階（同）

その他

記録撮影：当該学校での実施記録をYouTubeの文化財活用センターチャンネルで公開済み

複製品とキットのみの貸出実績

プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風
機関名	平安女学院中学高等学校 (〒602-8013 京都府京都市上京区烏丸通下立売西入ル172-2)
貸出期間	2022年7月11日(月)から7月15日(金)※輸送期間を除く
輸送方法	日本通運関東美術品支店 美術品専用車両による輸送、玄関にて引き渡し 開梱・梱包は利用者による対応
参加対象・人数	202名(中学校1～3年生)
利用者の目的・ねらい	美術授業の中での鑑賞教育の一環として実施したい
実施までの流れ・内容・事前事後学習等	当センターから、事前に資料一式を送付。実施内容は不明。
利用者の意見・感想など	また違う作品で実施できればと思います。
準備に要した時間	回答なし

プログラム	④絵で読む平家物語
機関名	芝中学校・高等学校 (〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-37)
貸出期間	2022年12月15日(木)から12月27日(火)※輸送期間を除く
輸送方法	日本通運関東美術品支店 美術品専用車両による輸送、玄関にて引き渡し 開梱・梱包は利用者による対応
参加対象・人数	39名(中学校1年生～高校3年生:特別授業希望者)
利用者の目的・ねらい	冬期講習における教科横断型講座にて教材として使用するため、文化財鑑賞
実施までの流れ・内容・事前事後学習等	当センターから、事前に資料一式を送付。本文と表現の対比を十分に体験させるための授業構成。対比してみてもわかったこと、わからなかったことをまとめさせる際の道筋の設定に注意して実施した。
利用者の意見・感想など	普段よりも積極的にワークに取り組んでいた。食い入るように屏風を鑑賞していた。
準備に要した時間	1週間ほど



プログラム	③見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風
機関名	目黒区立大鳥中学校 (〒153-0064 東京都目黒区下目黒3丁目23-18)
貸出期間	2023年3月7日(火)から3月14日(火)※輸送期間含む
輸送方法	日本通運関東美術品支店 美術品専用車両による輸送、玄関にて引き渡し 開梱・梱包は利用者による対応
参加対象・人数	570名(1年生～3年生)
利用者の目的・ねらい	美術科で美術品を鑑賞し、作者の意図や後世への影響を学び、また文化財の価値や保護する重要性、本物を鑑賞する意義について学ぶ単元で活用をしたい。新型コロナウイルス感染症予防のため、生徒たちが外出する機会が非常に少なく、タブレットや資料では見たことがあっても、五感で感じる経験が圧倒的に不足しており、このようなプログラムが非常に貴重になっています。中学校での美術が最後の機会になる生徒も少なくなく、必ず取り入れたい単元で、美術文化とその歴史に触れ、一人でも多くの生徒が生涯にわたって美術文化を愛好するところを育みたい。
実施までの流れ・内容・事前事後学習等	当センターから、事前に資料一式を送付。実施内容はスクリプト案通りに実施とのこと。
利用者の意見・感想など	非常に楽しそうに参加しており、自分たちで博物館や美術館に足を運びたいと話していました。主要部分の作品パネルがあると嬉しいです。
準備に要した時間	回答なし

学校向け複製品のお貸出について

ぶんかつアウトリーチプログラムでは、文化財活用センターが行っている複製品のお貸出しとは別に、東京国立博物館所蔵の考古作品の原寸大樹脂製レプリカの学校向け貸し出しも行っていきます。複製品とともに10分程度の授業案と、基本的な作品情報を宅配便でお届けします。触っていただくことも可能です(室内での使用に限ります)。

※申し込み方法、期限、流れは【B】(講師派遣なし)と同じ流れです。2ページをご確認ください。
※往路は元払いで発送します。復路は同封する着払い伝票をご利用ください。
※ご利用後は、発送時に使用されていた資材で梱包し、利用期間内にご返送ください。
※授業案と作品情報はWEBサイトでも公開しています。



①重要文化財「遮光器土偶」
樹脂製レプリカ
大きさ、重量ともに原品に
合わせてあります。



②重要文化財「遮光器土偶(前後分割)」
樹脂製レプリカ
内側の指の跡(製作の跡)を触ることができます。
右利きの人が作ったことがわかる複製品です。



③重要文化財「みみずく土偶」
樹脂製レプリカ
大きさ、重量ともに原品に
合わせてあります。



④国宝「埴輪 挂甲の武人」
樹脂製レプリカ
大きさ・色を原品に
合わせてあります。

アウトリーチプログラムの講師になるまで

ぶんかつアウトリーチプログラムでは、トーハクやぶんかつの研究員・専門職員が講師を担当しています。私もそのうちの一人で、今年度から講師としてみなさんの前に立つことになりました。

はじめてアウトリーチに同行して実際の授業を目の当たりにしたとき、私自身がとても楽しく屏風を鑑賞できたことに驚きました。私自身、作品を前にするとついついキャプションなどを読んでしまうことが多く、どうしても「鑑賞する」というよりも「勉強する」という意識が強かったからです。作品の美術史的価値とは別に、なぜその作品がよいと思うのか、そのとき感じたことを大切にすればよいと初めて気づいたからです。

一方で、自分が授業を担当することができるか大いに不安になりました。というのも、これまでは自分自身の研究や関連して学んだ知識、経験にもとづいて相手(観覧者や学生など)に向かって発表する・話をする機会が多く、アウトリーチプログラムで実践しているような対話型授業の経験が少なかったからです。

そのため、実際の授業がどのように進んでいるのか何度も見学し、スクリプトを読み込み、先輩職員の前で予行練習をしました。You tubeで公開している動画も繰り返し閲覧しました。ところが、準備万端と授業に臨んだものの、いざ本番になると参加者たちの反応はさまざま。予想外の質問や受け答えに戸惑いました。なかには、問いかけしても全く反応がないことも。思った通りの進め方や意見を引き出すができないうちに動揺し、せっかく覚えた原稿が頭からとんでしまうこともありました。

そこでもう一度、授業の進め方をよく観察してみました。問いかけに対する答えをリフレインし、その場のみんなで共有すること。問いかけに対する答えを否定せず、受け止めること。基本のスクリプトを大切にしながらも、受講者の反応や雰囲気やアレンジしながら授業を進めていくこと。当たり前のことなのですが、プログラムを実施するためのスクリプトや授業動画は、あくまで参考例。スクリプトを覚えることも必要でしたが、その構成・問いかけが何を引き出すためのものなのか、自分自身の言葉として発する重要性。そしてなにより、自分がはじめて授業を見学したときに感じた楽しさを参加者と共有することが、アウトリーチプログラムのおもしろさであることを、あらためて認識するきっかけとなりました。

鑑賞することの楽しさ、面白さを忘れないよう、講師としてアウトリーチプログラムに臨んでいきたいと思えます。

(文化財活用センター企画担当研究員 飯田茂雄)

おわりに

2022年度はお申し込みをお受けしたほぼ全ての機関でプログラムを実施することができました。特別支援学級・特別支援学校でも、コロナウイルス感染症による各種制限が緩和され実施できたことは大きな一歩になったと考えています。作品を見ること、感じる、見たり感じたりしたことを受けて楽しみながら何かを表現することが誰にでもできる、ということに改めて感じた1年となりました。2019年度には院内学級からのお申し込みをお受けしたものの、制限が通常の機関よりはるかに厳しく今日まで実施できずにいますが、プログラムの開発と実施調整はできていますので、病院のボランティア活動が再開された後、ボランティアの皆さんと一緒に実施できるよう準備を進めています。本プログラムの目的はごあいさつに記した通りですが、すべてのひとが制限をうけることなく、躊躇することもなく参加できる、という考えをもとにプログラムの在り方と方向性を考え開発を行ってきた1年となりました。

一方で、昨年度課題として挙げた「先生方のみでできる形に変えてゆく」ことについても注力しました。プログラム③絵で読む平家物語(原本:イギリス・大英博物館所蔵)のスクリプト案を除くすべての情報をWEBサイトに開示し、足立区立西保木間小学校、世田谷区立玉川中学校、三重県立四日市高等学校のご協力を得て、プログラムの記録撮影並びに解説を入れた番外編動画の制作と公開も行いました。実施件数が増えたことにより講師を担当できる研究員・専門職の育成も進んでいますが、やはり講師派遣には限りがあります。義務教育課程の学習指導要領において鑑賞の授業が必須である現代だからこそ、先生方にも楽しんで鑑賞の授業を実施していただきたい、そういった思いをもとに参考となりそうなすべての情報を今後も公開してゆきますので、活用いただければ幸いです。

2022年度にプログラムを受けた参加者の皆様、お申し込みくださったご担当の皆様にとって、この体験が「文化財に親しみ、自らに問いかけ、考える力を養い、自分たちの地域や身の回りにある、人の手から手へ受け継がれてきた文化財を守り受け継いでいく力を育む」ことの第一歩になることを願っています。

(文化財活用センター 企画担当主任研究員 小島有紀子)

2022年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書

発行日 令和5(2023)年9月28日
編集・発行 独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター
デザイン 平ノ内明子
印刷 大協印刷株式会社

※★の複製品を使用したプログラムでは、文化財未来継承プロジェクト(主催:京都文化協会/キヤノン株式会社)で制作された高精細複製品を使用しました。
※本プログラムはキヤノン株式会社と国立文化財機構による「文化財の高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト」の一環として実施しています。